

# サムライ・ガール

作・演出 萬野 展

## 登場人物

佐久間 翼 警部補。三十二才。(深野)

佐々木 聖 刑事。二十八才。佐久間の相棒。(関)

佐々木 麻矢 大学生。二十一才。佐々木の妹。(高橋)

武田 憲和 ゲーム屋店長。三十二才。佐久間の友人。(一村)

多田 真佐代 主婦。二十八才。武田の愛人。(石田)

五代 碧 ゲーム屋の店員。啞者。二十三才。高山の恋人。(永倉)

高山 右近 無職。俳優の卵。二十三才。(山崎)

相原 章一 詐欺師。三十五才。(立花)

国府田 祥子 ツアコン見習い。二十二才。相原の恋人。(大石)

高林 ルミ 関東テレビ社員。二十六才。(宮崎)

久保 直 関東テレビ社員。二十四才。(堀)

松川 源司 総会屋。マツカワプランニング社長。三十七才。(松本)

指貫 浩二 マツカワプランニング社員。三十三才。(磯貝)

永倉 千代 内閣情報室職員。三十三才。(杉山)

後関 珠子 宗教法人エミール創世会幹部。二十五才。(長岡)

相馬 晋作 宗教法人エミール創世会幹部。三十二才。(道浜)

射干 綵舟齋 宗教法人エミール託宣係。二十八才。(市川)

ナカムラ 日の出経営研究所員。三十二才。(早矢仕)

タナカ 日の出経営研究所員。二十六才。(籬)

スズキ 日の出経営研究所員。三十六才。(田村)

ホームレス 年齢不詳。(中條)  
サラリーマン 零細貿易会社係長。四十才。(志村)

\*\*\*

語り部(きのと) 未来世界の日本人。(中條)  
たちめ 未来世界の日本人。子供。(石田)  
うたか 未来世界の日本人。子供。(永倉)  
はやふ 未来世界の日本人。子供。(志村)  
よもや 未来世界の日本人。子供。(立花)  
ひしり 未来世界の日本人。青年。(宮本)

【注記】当脚本の著作権は萬野展が保持する。当脚本の無断上演を禁ずる。

## シーン1 相原逮捕

いろんな場所が組み合わさった空間。  
カウンターの中心（とおぼしき場所）に牛丼屋の店員姿の若い男が立っている。  
男は窓の外に気をとられている。早朝である。  
学生風の女がひとり登場。

男 （客に気づいて）いらっしやいませ！

男は女の顔を見て絶句する。女は笑い出す。

男 オマエ、なにやってんだこんなところで…。

女 （まだケラケラ笑っている）似合う！ 似合うよそれ！

男 ほっとけ！ なにしにきたって聞いてんだよ！

女 なにしにって、ここ牛丼屋でしょ？

男 オマエなあ、遊んでんじゃないんだぞ！

女 ダイジョブだって。全然客いないじゃん。

男 そういふ問題じゃないの！

女 あのねえ、あたしおなか空いてんの。

男 だから？

女 大盛り。

男 なにが？

女 なにってなによ。牛丼よ。

男 なんておれが牛丼なんか！ （自分の恰好に気づく）……作るのか…。

男、渋々牛丼を作り始める。（このあたりは無対象でよい）

女 ねえねえねえ、知ってる。凄い行列だよ、外。

男 ああ…まさかあんなに来るとはな…。

女 あれなんなの？ なに並んでんの？

男 …ゲームだよ。

女 …？ なに？

男 テレビゲーム。

女 あの行列？

男 あんまり見るんじゃない。

女 兄貴ずつと見てんじゃないよ。

男 おれは見てなきゃいけないの。

女 はあ？

男 ……へい、大盛り二丁、お待ち。（女の前に丼を置く）……ホントに来んのかよ…。

じつと窓の外を見ている男と、その兄を見ている妹。

舞台上、別の場所。小さな事務所らしい。

スーツ姿にコートを着た男と自由業風の男、話しながら登場。

自由業男 いやいやいやいや。これマズいって佐久間ちゃん。

コート男（佐久間） しょうがないだろ。もう来ちゃってんだから。

自由業男 マズいよ。店のまわり五周しちゃってんだよ。

佐久間 そんなにか…。

自由業男 これ、どうやって言い訳すんだよ。

佐久間 …。

自由業男 だつて、ないんだよ。こんだけ並んで。一個もないんだよ。「サムライでG

O!」V。だつて明日なんだもん、出荷。あるわけないよなあ。

佐久間 済まん。

自由業男 だから云つたでしょうが。まずいって。そんな。売れてんだから。オバケなんだから「サムGO」。一日早く出るなんてデマ流したらエライことになるよつて云つたでしょ、おれ。

佐久間 …済まん。

自由業男 済まんと思うなら、これ、六時になったら、オマエ出たって客にアタマ下げてくれよ。

佐久間 いや、それは、出来ん。

自由業男 またあ。なんでよ。ちよつとその、手帳出してさあ。桜のマークでさあ。收拾しゅうしゅうつけてよ。そうじゃなきゃ絶対収まりつかないって。

佐久間 署じゃ、秘密なんだよ。

自由業男 …はい？

佐久間 二課で知ってんのは、俺と佐々木だけ。

自由業男 …上司には？

佐久間 内緒。

自由業男 ………はつ。(笑いともため息ともつかない呼気)

佐久間 ごめんね。

自由業男、脱力&絶句。佐久間、じつと窓から下の行列の様子を見ている。  
牛丼屋。

女 …デマア？

男 シーッ。

女 じゃなに、一日前に発売っていうのが、ガセネタなわけ？

男 ああ。

女 ちよつと、そんなこと警察がしていいわけ？ しかもよりによって「サムGO」でしょお？ メチャメチャ売れてんのよ。

男 分かってるよ。…あのゲーム屋の店長がな、佐久間さんの同級生なんだよ。それで無理云つて頼み込んでさ。

女 だつて、そんで肝心の容疑者が現れなかったらどうすんの。いくらゲームに目がないやつだからって…

男 いいからあんまり見るなつて。

女 よつぽど切羽詰せつぱまつてんのね。あの真面目な佐久間さんが、そんなことするなんて。

男 オマエはあのオッサンを理解してないね。

女 なにがよウ。

男 あの人はな、逮捕のためなら、なんでもするんだよ。

事務所では佐久間が携帯電話をかけている。

女 ……なんかわかる気がするわ。佐久間さんってさあ、異常に責任感強そうだし…  
 男 （鳴り出した携帯を取り出しつつ）いいからオマエ、もう帰れよ。  
 女 まだ喰ってるんですウ、だ。  
 男 はい。佐々木です。

以下、事務所の佐久間と牛井屋の佐々木の会話。

佐久間 佐久間だ。今、七周目に入った。こつちから死角になった。見逃すなよ。

男（佐々木） 佐久間さん、相原ホントに来ますかね。…開店まであと三十分ですよ。

佐久間 相原のゲーム好きは常軌<sup>しよつぎ</sup>を逸<sup>いっ</sup>してる。来る。

佐々木 でももし来なかったら…

佐久間 来なくても来る。

佐々木 はあ…。

佐久間 問題はその後だ。こつちは俺とお前のふたりだけだ。タイミングを合わせて  
 パクらないと逃げられちまうからな。そつちで見つけたらすぐに知らせろよ。

佐々木 はい。

佐久間 あ、それから、さつき表であれだ、麻矢ちゃん見たぞ。

佐々木 ああ…。

佐久間 そつち側に回っていったけど、見なかったか。

佐々木 いや、あの、えーと…。

女（麻矢） （自分のことが話題になっていると気づいて）ヤッホー、佐久間さん！

佐々木 （電話口を押さえて）うるさい、黙ってる！

麻矢 あたしあたし！。麻矢だよーん。

佐々木 うるさいってんだよ！

牛井屋にサラリーマン風の男、入ってくる。

佐々木 あ、らつしゃい。…佐久間さん、ちよつと待ってもらえますか。

麻矢 おーい、聞こえるかー。クーマさーん！

佐々木 オマエな、いい加減に…

サラリーマン お冷やくれる、お冷や。（酒が入っているようだ）

佐々木 あ、はあい。

佐久間 もしもし。もしもおし！…なんだあいつ。（事務所の佐久間、携帯を切る）

麻矢 お兄ちゃんお兄ちゃん、こつちもお冷や。

佐々木 おまえは…！

佐々木、麻矢を睨んで口を開きかけたところで、動きが止まる。  
 舞台上、別の場所に、サングラス、マスク、ジャンパー姿の男が登場している。

サラリーマン あのね、大盛りちようだい。

佐々木 ……（固まったまま、窓の外を見ている）

サラリーマン ……大盛りね。

佐々木 ……。

サラリーマン ……大盛りだよ。

佐々木 （上の空で）…へい、大盛り都合三丁。

サラリーマン おい！

麻矢 お兄ちゃん…？

佐々木 ……来たよ…。ホントに来たよ…！（握りしめていた携帯に）佐久間さん！  
佐々木です。来ました。相原、現れました！（携帯は切れている）あ、畜生…。  
佐々木、慌ててダイヤルしようとするが、うまくいかない。

麻矢 ねえねえ、あれ？ あのサングラスのやつ？

ジャンパーの男（相原）、ゆっくり歩いて姿を消す。

佐々木 麻矢、ここにいろよ！

佐々木、飛び出していく。退場。

麻矢、佐々木を追って退場。

サラリーマン ……おい。ちょっと！……なんなんだよ…。

サラリーマン退場。

外。麻矢、登場し、事務所の窓に向かって、ぴょんぴょん跳ね、手を振り回す。通りの曲がり角の向こうを指さし、窓に向かっておいでを繰り返している。通事務所。

自由業男 ……なんだあれ？

佐久間 なに。

自由業男 なんだか、イカレちゃってんのがいるぜ。

佐久間 （窓の外を見て、ぼつ然）…麻矢ちゃん。

自由業男 マヤチャンでなんだよ、知り合いか？

佐久間 ……（動作の意味を理解する）武田！ ここにいろよ！

自由業男（武田） ……つて、おい。佐久間！

佐久間、飛び出して退場。武田、追って退場。

外。麻矢のいる場所に、佐久間、登場。

麻矢 佐久間さん！ あっち行った。あっち！

佐久間 麻矢ちゃん、ここにいて！

佐久間、麻矢の指す方に退場。

武田、追って登場。

麻矢・麻矢 ……。

麻矢と武田、ふたりして佐久間を追って退場。

相原、登場。それを追って佐々木、登場。

相原、立ち止まる。佐々木、その後方で立ち止まる。

佐久間が追いつく。

佐久間、佐々木、左右からゆっくり回り込んでいく。

相原 （気配を感じて振り向くとすぐそばに佐久間）…。

佐久間 ……どうも。

相原 ……（反対側を振り向くと牛井屋・佐々木）

佐々木 ……まいど。

相原 ……！

身を翻<sup>ひるがえ</sup>して逃げようとする相原に同時に飛びかかる佐久間と佐々木。

佐々木 相原アッ！

ここで捕まってるなるものかと必死に暴れる相原が、佐久間と佐々木の手を振り切るのとはほぼ同時に、麻矢と武田が追いつく。  
相原、まっしぐらに麻矢に飛びかかる。

麻矢 あ。

武田 お。

相原 動くなあつ！

相原が麻矢の体を楯に取っている。  
そのすぐ横に武田が立っている。

佐々木 麻矢！…バカ！

相原 動くなつて云つてんだあッ！

佐久間 落ち着け、相原。

相原 うるせえっ！

佐久間 武田。

武田 いや、これ。そん。(なに云つてんだかわからん)

武田、すぐそばの相原に触ろうとしたりして睨まれ、手を引っ込める。  
佐久間は、武田に、その場から離れると手振り。

武田 え。おれ？ なに。あッ。うん。わかった。うん。

武田、しきりに咳払い。なにか勘違いしている。

武田 あ、あのさ…そういうの、まずいんじゃないの。

相原 うるせえっ！ 黙ってるっ！

武田 いや、黙ってるっただって、これ、このままみんな黙ってたら話進まないんだからさ。ねえ。こういう沈黙って駄目なんだ、おれ。黙ってらんないの。ねえ、とりあえずその子放してやるっよ。今時流行<sup>はや</sup>らないっしょ。そういうの。スマートに行こうよスマートに。エレガントに行こうよ。

相原 うるせえっ！ こんな時にエレガントもエレファントもあるかッ！

武田 それ面白いよ。いけてるじゃないこの人。センスいいよ。なっ。面白いよなっ。

なっ。(武田、突如、佐久間に振る)

佐久間 うん。面白いぞ。

佐々木 面白いぞ相原。

相原 動くなつてんだよ！

やや沈黙。

相原 ……面白いが。

麻矢 ぜんぜん…。

相原 ……よし。マトモなのはおまえだけだ。

武田 ……あのさ、あの…(突如思いついて)お母さんはぎっと泣いているぞ！  
相原 死んだ。

武田 ああ、ごめん。あの……お父さんだって悲しむぞ！  
相原 行方不明。

武田 お兄ちゃんとか妹とか…

武田 いない。

武田 ……あ、そう。一人っ子。…えーと、恋人。…いないよな……。

相原 ……（ちょっと動揺）

麻矢 動揺してる動揺してる。

武田 あ、恋人。恋人いるんだ。

相原 ……

武田 いるんだね、君には恋人がいるんだね！

相原 ……

武田 なんていうの、名前なんていうの。

麻矢を掴む相原の手が弛む。

相原 ……祥子。

別の場所に、スーツ姿の祥子、登場。

祥子 皆さま、花と妖精の故郷、ストックホルムへようこそ。これからの六日間、ツアアの皆さまのお世話をさせていただきます私、国府田祥子と申します。まだまだ新米ですが、どうぞよろしくお願いいたします。

相原 （独白モード）（見習い期間を終えたばかりの、その添乗員は初々しくて、取り引きのためにツアー客に紛れ込んでる俺の目には、やけに眩しかった…。（麻矢、落ちた鞆を拾って逃げようとする）ツアー二日目、ツアー客のひとりがホテルのロビーで手荷物をひったくられた。たまたまその場に居合わせた俺は、考えるより早く体が動いた。

相原、麻矢を再び押さえつける。

麻矢 Auchi! Oh no! Let me go! Let me go!

祥子 （駆け寄って）（だいたいどうぶですか！）

相原 ……ああ、平気…。（麻矢のハンドバッグをもぎ取って、武田に渡す）

武田（ツアー客として）（どうも、助かりました。こいつ、まだ子供のくせして…警察に突きだしてやるつか。）

相原 やめたほうがいいですよ。面倒な手続きが増えるだけだ。もしどうしても警察呼ぶなら、僕は関わってないことにしてください。

武田 はあ、…それもそうですな。

相原 じゃ…。

相原、数歩歩く。祥子が相原に追いつく。

祥子 相原さん。あの、本当にどうもありがとうございました。ホントはああいう時

私があんなにかしなきやいけないんですよね。こんなじゃツアーコン失格ですよ。

相原 そんなこと、ないよ。…立派にやってる。

祥子 そつですか？ ホントに？…相原さんにそつ云われると、なんか自信ついちゃいます。



相原 え、どうして？

祥子 だって、相原さんて凄く旅慣れてるでしょ？…わかりますよ、それぐらいは私  
だって。きっと世界中あちこち行ってらっしゃるんでしょ？

相原 …。

祥子 …どうしたんですか？ 慌てて…（笑つ）…とにかくちゃんとお礼が云いたかつ  
たんです。どうもありがとうとついごいしました。

祥子、背を向ける。

相原 あ、あの！

祥子 え？

相原 あのさ…明日のフリータイム…ガムラスターデン行かないか。

祥子 え？

相原 ストックホルムの旧市街。町並みが綺麗なんだ。海がすぐそこです、船に手が届  
きそうで…。案内するよ。おれ、何回か来てるから…。

祥子 …ふたりで？

相原 どうかな？ 駄目かな？

祥子 …。（首を横に振る）

相原 OK？

祥子 …。（頷く）

相原 （独白モード）それから、おれと祥子は急速に親しくなった。

祥子、相原、位置を変える。  
港にて。汽笛の音、の真似を麻矢がする。武田は海猫の声などを演出する。

祥子 えっ！ あたしも大好き。

相原 最高だよ、サムライでGO。

祥子 今度<sup>フライ</sup>が出るんですよ。ちょうど日本に帰る頃かな。

相原 <sup>フョー</sup>が出たとき、おれ、徹夜で並んだんだぜ。

祥子 すごい。気合い入ってるんだあ。

相原 まあね、唯一の趣味だからさ、ゲーム。

相原 （独白）そして、ツアー最後の夜がきた。

祥子と相原、位置を変える。音楽。ホテルのラウンジにて。

祥子 ワインを。

武田（ウェイターとして） ウイ・マダム。

祥子 …明日で終わりなんです、ツアー。

相原 どうしたの？

祥子 なんだか寂しくなっちゃって。

相原 日本に帰れるのに寂しいの？

祥子 ううん。

相原 じゃあ、なに？

祥子 …。相原さん、日本に帰っても会ってくれるかなあ？

相原 …。

祥子 だめ？

相原 いいよ。

祥子 嬉しい。じゃあ、じゃあさ、一緒に フランク 並びましょー！

相原 (独白モード) ……そして、帰国したおれを待っていたのは、おれに逮捕状が出ているという情報だった。

祥子 (独白モード) 日本に帰って相原さんは何回か会ってくれた。でもいつもどこか上の空だった。嫌われちゃったのかな、と思った。

相原 祥子、違うんだ。おれは君を巻き込みたくなくて…

祥子 ストックホルムでの彼は素敵だった。堂々として、なんだか自分が生まれた街みたいに歩いてた。そんなあなたが…

相原 祥子。おれは…おれはさ…！

祥子 そんなあなたが、まさか…まさか…

相原 祥子…！

祥子 ポルノビデオの密輸をやってたなんて！

相原 わあっ！ どうしてそれを！

佐久間 おれが教えただ。

相原 えっ。

見回すと全員が相原を囲んでいる。ここはもとの路地裏。

佐久間と佐々木、がっちり相原の両腕を掴む。

祥子 相原さん。お願い。もうやめよう。

相原 おっ。

佐々木 祥子さんの気持ちを考えろ、相原。

相原 うっ。

佐久間 回想シーンだと思いこんだおまえの負けだ。

相原 あっ。

佐久間、相原に手錠をかける。

相原 卑怯だぞ！

佐久間 済まん。

相原 祥子までダシに使いやがって…！

佐久間 ……。(武田たちに) 済まんがちょっと待っててくれ。

武田 ああ？

佐久間と佐々木、相原をちょっと離れた場所に引っ張っていく。

相原 なんだつてんだよ…。

佐久間 なあ相原、おまえのような個人営業の密輸業者が今までつまみ汁を吸ってこれたのは、おまえの情報収集能力がズバ抜けているからだ。そうだろ。

相原 あんたには関係ないね。

佐久間 まあそうとんがるな。おまえなら耳にしているはずだ。半年ほど前から、北欧で動いてる日本人がいる。

相原 ……。

佐久間 おれたちはその男の名前が知りたいんだ。…たのむ、相原。教えてくれ。

相原、しばらく黙っているが、ポツリと

相原 ……指貫。<sup>さしぬき</sup>

佐々木 サシヌキ？

相原 指貫って名前の日本人だ。下の名前は知らない。北欧からバルト海の沿岸、ウクライナにかけて、派手に動き回ってる。

佐久間 どんな動きだ。

相原 よくわからん。ほとんど情報がないんだ。ただ、向こうでなにかを買いつけて、こっちに運ぶつもりみたいだ。

佐々木 どうしてわかるんだ？

相原 (笑って) そういう動きかたをしてるんだよ。

佐々木 なにを買ってるんだ。誰の命令で動いてるんだ。

相原 だからそこまでは分かんねえんだよ！

佐々木 佐久間さん。

佐久間 …よし。

佐久間、相原の手錠を外す。

佐々木 …佐久間さん？

佐久間 行っていい。

佐々木 佐久間さん！

佐久間 いいか、相原。おれたちの目の届くところにいる。今回は見逃す。

佐々木 いや、ちよつと、佐久間さん、だって、逮捕状が出てるんですよ！

佐久間 必要な情報は得た。いいか佐々木、それから武田、あと麻矢ちゃん、ここにいる全員、このことは他言無用だ。

佐々木 マジかよ…。

祥子 相原さん。いこ。

相原 …。

祥子 ねえ、明日、並ぶでしょ？ サムGO。一緒に…。

相原 …ああ、…並ぼう。

相原、祥子とともに退場

佐々木 まずいつすよ、佐久間さん。

佐久間 もう云うな。それより指貫という男だ。洗うぞ。じゃ、武田、またな。

武田 おい！ 行列どうすんだよ！

佐久間 済まん。

武田 まったく、これだもんなあ…。

麻矢 あ、ちよつとお兄ちゃん！ あたしどうすんの！

佐久間、佐々木、追って麻矢、退場。武田も退場。  
サラリーマン、登場。

サラリーマン あ…牛井、まだ…？…あれ、あの…汁ダクでね…あと、オシッコ…

と云いつつサラリーマン退場。

## シーン2 インタヴュー

公園。

ホームレス登場。

そこらへんに座り込む。

実業家風の男（松川）、登場。

ホームレスの隣に座る。

実業家男 ……冷えるねえ、今日は。

ホームレス ……あああ、ねええ。

実業家男 どうなの、景気。

ホームレス ……（黙って男の顔を見ている。空を見上げる）

実業家男 ……（つられて空を見上げ）いやあ…いい天気だなあ。

ホームレス ……

実業家男 あかさ、シリトリしない、シリトリ。

ホームレス ……

実業家男 これ、おれのオリジナルなんだけどさ、好きなものシリトリ。お互い、自分の好きなものだけでさ、シリトリするの。

ホームレス ……

実業家男 な、どうせヒマだろ？ いいか、いくよ。…もずく。

ホームレス ……

実業家男 好きなんだよ、おれ。はい、あんたの番。

ホームレス あああ…孔雀

実業家男 おお。なかなか風流だね。…ええと「く」か。車…いや、嫌いだな…。く、

く、靴磨き。うん。好きだ。好きだね、あの風景がね。靴磨き。

ホームレス ううう…霧雨

実業家男 ……らしくないこと云うねえ、あんた。霧雨…め…メシ！ 基本だね。

ホームレス ……シニールアリズム。

実業家男 はあつ？…（実業家男、気圧されて正座する）えー、む、蒸し風呂。

ホームレス ……ロココ様式。

実業家男 ……キ…金太郎…別に好きじゃねえな…き…貴金属！（落ち込む）俺ってやつは…。

ホームレス ……クラウゼビッツ。（註・ドイツの軍人。「戦争論」の作者です）

実業家男 誰なんだそれは…。つ…月夜！…月夜好きだ！…たぶん好きだ！

ホームレス 吉野桜

実業家男 ラ…ランバダ…。好き、だった。当時は好きだった。

ホームレス ダンディズム。

実業家男 ダ…ダンディズムう？…段ボールの間違いじゃねえのか、おい。参ったなこりゃ…。

銀縁のメガネをかけた男、登場。

メガネ男 社長。

実業家男 おう、ここだ。

メガネ男 ……シリトリですか。

実業家男 ちよつと待て。今な、おれの人生を賭けた戦いになってんだよ。  
メガネ男 はあ？

実業家男 おまえ、ムをつく言葉で好きなもの、なんだ。

メガネ男 (首を傾げて) さあ…。あ、蒸し風呂好きですけどね。

実業家男 ……もついい、頼りにならない。

メガネ男 プレスが来てます。

実業家男 新聞か？

メガネ男 テレビです。追い返しますか？

離れた場所にキャリア風の女、アシスタント風の男、登場。

キャリア女 松川社長！

実業家男 ……あれか？

メガネ男 はい。

キャリア女 マツカワ・プランニングの松川社長ですね！

実業家男 (松川) どこだ？

メガネ男 関東テレビです。

キャリア女 取材許可いただいているんですが、事務所いらっしやならなかったの。

女、つつかかと近寄って、名刺を差し出す。

キャリア女 はじめまして。関東テレビの高林です。こっちは同局の久保です。

アシスタント (久保) どうも。

松川 ……。

キャリア女 (高林) お名刺いただけますか？

松川、黙って札入れを取り出し、五千円札を出す。

ホームレスに握らせる。

松川 参ったよ。あんたの勝ち。これでなんか食べてよ。ね。

ホームレス あああ…。

松川 じゃあまたな。

松川、立ち上がって歩き出す。

高林 取材拒否ですか、社長。

松川 あのな、お嬢さん。ええと…。(名刺を見る)

高林 高林です。

松川 高林ルミさんか。そついやテレビで見るなあ、その顔。

高林 ずいぶん気前がいいんですね。さすがは、今をときめくマツカワ・プランニングの社長さんだわ。

松川 あのな、高林さん。まず第一におれはマスコミが嫌いだ。第二におれは取材されるような大物じゃない。おれのコメントはそれだけだ。

高林 外務省の遠藤さんを御存知ですね？

松川 あんた…、人の話聞かないね。

高林 もちろんしつかり承ってます。社長はマスコミがお嫌いですが、ご自分が大物でないとおっしゃる謙遜家で、おまけに見知らぬホームレスに施しを惜しまない大の慈善家でいらっしやる。

松川 (いきなり高林にぐいと顔を近づける) 気をつけな、お嬢さん。おれはね、そういう口のきき方に敏感なんだ。

高林 (一歩も引かない) 久保くん、テープ回して。

久保は緊張してレコーダーのスイッチを入れる。  
松川と高林は、接近したまま睨み合っている。  
松川、すつと身を引く。

松川 (鼻で笑う) 鼻柱はなつばしの強いお嬢さんだ。

高林 合格ですか？

松川 まあまあだ。

高林 お約束通り、ブイ(註・ビデオのこと)もスチル(註・写真のこと)もなし、テープだけです。取材させていただけますか？

松川 なにが聞きたい？…ああ、外務省がどうとか云ったな。

インタビュ어가始まり、久保はノートとペンを構える。

高林 遠藤事務次官を御存知ですか？

松川 御存知ですかとは、ずいぶんなご挨拶あいさつだな。…霞ヶ関におれの知らない次官なんかいないよ。

高林 承知します。では、現在の外務省の動きについて、どう思われますか？

松川 動き？ 動きってなんだい。

高林 遠藤次官をはじめ、次官クラスの有力官僚が、国内の大手企業幹部と頻繁に接触していることについて、です。

松川 あんた、はつきりモノ云うねえ。おれの好みだなあ。

高林 会合の相手は電気、通信、工作機械、精密機械、金属、化学…あらゆる分野に渡り、それぞれ折り紙つきの超優良企業ばかり。

松川 連中は原料を輸入して品物を輸出してる。外務省のご機嫌つかが伺うのは仕事のうちだろつが。

高林 動いているのは外務省だけじゃない。通産省、運輸省、農林水産省、防衛庁にいたるまで、およそ考えられる省庁の高級官僚たちが、今までにない人脈を辿たどって連絡を取り合ってるんです。

松川 あんたの考えすぎじゃないかね。ゴルフコンペの打ち合わせでもしてるんじゃないのかい。

高林 例えば先月の末、遠藤次官は国内最大手の自動車会社の最高責任者と会っています。この会合をセットしたのは、松川さん、あなたですね？

松川 (ニヤリと笑う) ノーコメントだ。

高林 科学技術庁の某幹部が、あなたの肝煎りで大手食品メーカーの会長と会談したという噂は？

松川 ノーコメント。

高林 他のケースに関しても、動いているのはいずれも企業のトップクラスの人たちです。松川さん、…いったいなにが起こってるんです？

松川 ノーコメント、だな。

高林 …。

松川 質問はそれだけかな。

高林 …。

松川 元気がいいのはいいが、切り札も持たずに敵の本丸にノコノコ上がってきて、勝ち目はないぜ、お嬢さん。

高林 あなたが本丸なんですか？

松川 そこだよ、おれが好きなのは、その回転の速さだよ(こめかみを突いてみせる)。…どうせ今日のところはなにも期待してないんだろ？

高林 (ちよっと肩の力を抜いてみせる) ええ、そうですね。

松川 顔見せつてところか、え？ 大したお嬢さんだ。

高林 お褒めにあずかつて恐縮です。

松川 悪いが今日はこれから一仕事ある。よかったらまたおいで。

高林 ええ、またお邪魔させていただきます。

松川 またな、お嬢さん。

高林 お時間を割いていただいてありがとうございます。…行くわよ、久保くん。

高林、一礼して、久保とともに退場。

松川 関東テレビか…。

メガネ男 抑おさえますか。

松川 放っておけ。どうせ大したことはできん。

メガネ男 わかりました。では…。

去りかけるメガネ男を呼び止める松川。

松川 指貫。それとな…

メガネ男(指貫) はい。

松川 警察が動いてるそうだな。

指貫 ええ。ネズミが一匹うるついているようです。

松川 掃除しておけ。近々ちかぢかまたあっちへ飛んでもらう。その前にな。

指貫 北欧ですか。

松川 バルト海から南下して、黒海沿岸を虱潰しらみつぶしにするんだ。買い捲まくれ。

指貫 あまり派手にやると、騒さわぎになります。

松川 …なあ、指貫。どうせもうすぐ騒さわぎになるんだよ。この国中がね、大騒さわぎになるんだよ。

指貫 …。

松川 よし行け。

指貫、一礼して退場。

松川、ホームレスに目をやる。

松川 (そばにしゃがみこんで)…なあ、おっさん、今にさ、日本中があんたみたいに なっちまうかもなあ…。

ホームレス、なにを考えているのか、ニコニコしてしきりに頭を下げている。

松川 (立ち上がって) お嬢さんよ。知性派アナにスパイこっちは似合わねえぜ。

松川、背を向けて手を振り、退場。  
物陰から、高林、久保、登場

久保 いやあ…やっぱ迫力ありますねえ。

高林 どう思う、久保くん。

久保 どうって…やっぱ怖いっすよ。あれ、もとヤクザの大幹部だって噂もあるんすよ。

高林 そんなことじゃないの。

久保 はあ。

高林 普段動かない人たちが動いて、会う必要のない人たちが会ってる…なにかあるのよ、絶対。なんだと思う？

久保 ゴルフじゃないことは確かみたいすね。

高林 写真は？

久保 (ペンに仕込んだ小型写真機を確認する) バッチリっす。

高林 帰って現像しましょ。とにかくもつと情報が欲しいわ…。

久保 どんな情報すか？

高林 例えば動きのおかしい人たちの共通点、隠れた目的…、どんなことでもいいの。とにかく調べて。

久保 はい。

高林、退場。

久保 ホントに写ってるだろうな…。(不安げ)

久保、ホームレス(まだ居る)に向かって、シャッタを切ってみる。  
ホームレス、手を挙げてピースサインを出して見せる。

久保 …分かってんのかよ。

久保、退場。  
ホームレス、退場。



## シーン3 大殺界

武田の事務所。  
店を閉め終えた武田、登場。

武田 やれやれ、終わった終わった。なんだかとてもない一日だったなあ。まったく久間のバカは全然変わらんねえよなあ。だいたいあいつがデカなんてさ、絶対ヤバいと思うんだよねえ。暴走機関車なんだからさあ。みんなさ、あの真面目そうな外見に騙されるんだよねえ。誰に向かってしゃべってんだ俺は。なんでこう口が勝手に動くんだろうなあ。黙ってらんないのかオマエは、こら。いやあそうは云ってもなあ。ってだからひとりで会話すんなつちゅうのッて突っ込んでるのも俺なんだよな。おれもちよつとヤバいかもしんねえなあ。…ちよつと黙ってみよう。……………(ぶはつと息を吐く)駄目だこりゃ。…危険だわ…なんです呼吸まで停めちゃうんだろ…。

店員風の娘、登場。

武田 ああ碧ちゃん。おつ疲れさん。もうさ、今日は終わりにしようよ。どうせ明日また大騒ぎになるんだから。

店員女(碧)く、了解の手振り。

彼女は唾者あしやなので、手話で会話をする。

以下、彼女の会話の内容を【】で括弧くって示す。

武田 (時間を見て)あれえ…よう碧、今日稽古の日だよなあ。

碧 【そうっすよ。】

武田 なんだよ、やつら遅いなあ。おまえ、なんか聞いている？

碧 【真佐代さんからはなんにも。】

武田 あっそ。高山は？

碧 【…】

武田 なに、どうしたの。ケンカでもした？

碧 【ケンカはいつもしてる…けど】

武田 じゃあなによ。

碧、云いにくそうにしている。  
バタバタと、ジャージ姿の女、登場。

ジャージ女 すみません。遅刻しました。

武田 おう、おはよう。なんだ、着替えてきたの？

ジャージ女 おはようございます。そうなんです。

碧 【おはよう真佐代さん。】

ジャージ女(真佐代) あ、碧ちゃんお疲れ。今日大変だったみたいじゃない？ なん

か朝から凄惨な行列だったって、お隣の奥さん云ってたわよ。

碧 【それがさあ…】

武田 (かぶつて)それがさあ…いや、長くなるからまたあとで話すよ。

碧 【武田さんの友だちっていう刑事がいてさあ…】

真佐代 ふんぶん。

武田 だからいいってば。一応、他言無用だつ、とか云われちゃってんだから…。そんなことより高山どうしたんだ。あいつこないと稽古できねえぞ。出ずっぱりの主役なんだからさ。

真佐代 そつですよ。あたし、右近ちゃんと絡み多いから、心配で…

武田 まったどつかで役作りに行き詰まって頭抱えてんじゃねえのか、あの情緒不安定男は…。

真佐代 でも、こないだ突然夜中に電話かかってきて、俺は掴んだ、俺の時代が来た、って電話口で叫んでましたよ。

武田 その行動そのものが情緒不安定以外のなにものでもないだろ。はた迷惑な。

真佐代 寝かした子供が起きちゃって…泣いて大変でした。

碧 【あの男の時代は、今年に入って都合三回来ている。】

武田 ちゆつことは最低二回は終わってるとってこつたな。…あつ、あいつ今日バイクか。

碧 【そう。】

真佐代 じゃあ、道が混んでるのかも…

武田 そつかもなあ。…おつ？

噂をすればバイクの音。

浴衣のような和服にヘルメットをかぶった男（高山）が登場

高山 …いやあ、<sup>ニイヨンロウ</sup>246混んじやって…。

武田 なんて着流しやねん！

高山 おはよつございます。遅くなりました。

真佐代 おはよつございませう。

武田 わけ分からんやつだなあ…。

高山はちよつと沈んだ感じである。

碧は黙って高山から視線を外している。

武田 まあいいやなんでも…。稽古始めようぜ。本番も近いことだし。

真佐代 はい。

高山 それなんです、武田さん、お話があるんです。

武田 なんだよ。

高山 …。

武田 え？ ひよつとして…時代が来たのか？

高山 ちよつと云い難いんですが…俺、今回の芝居、降ります。

武田 はあつ？

真佐代 右近ちゃん…。

高山 すみません。

武田 おまえ…ちよつと待てよ。自分がなに云ったかわかってんのか！ そりゃあ、俺たちはシロウト劇団だよ。来る客だつて身内ばかりだ。おまえの高い志には合わないかもしれないよ。だけどなあ、おまえ役者の端くれとしてやっていいことと悪いことがある！ それも本番二週間まえになって…

真佐代 右近ちゃん、またすぐ時代は来るから、ね、短気起こさないで。

高山 違つんです。…日が悪いんです。

武田・真佐代 ひ？

高山 二週間後の公演初日。世界は五十年に一度の大殺界に入ります。

武田 … おまえなに云ってるの？

それまで黙っていた碧が高山の前に飛び出す。  
猛烈な勢いで怒鳴る。

碧 【バカじゃないのあんた！ まだそんなインチキに騙されてんの？ いい加減にしてよ！ いい加減に目を覚ましてよ！ あんなのインチキに決まってるんだから！】

高山、恋人に詰られて、反撃するが、それも手話。  
このカップルはふたりだけの時は手話で会話しているのである。

高山 【絶対インチキなんかじゃない！ おれは確信してる！ あの方のおっしゃることは正しいんだ！】

碧 【なにがあなたのお方よ！ バカじゃないの、いいように煽られてさ、どうせもうすぐあなたの時代が来るとでも云われたんでしょ？】

高山 【そつだ！】

碧 【バカ！】

高山 【バカはおまえだ！ おまえも来ればわかる！】

碧 【誰が行くかバカ！】

そつぽを向く碧の目に涙がたまっている。

武田 俺たちまでケンカしてどうすんだ。

真佐代 確かに。

武田 なんだ、要するにおまえ、なんか宗教にでも入ったのか？

高山 (背を向けている碧の前にまわって) 【本当だよ碧。来ればわかるんだ。縁舟齋さまの素晴らしさが…】

武田 … だからおまえに問題あるだろ。おまえ喋れて碧も耳は聞こえるんだから、おまえだけでも発声しろよ。

碧、高山のほうを見ようともしない。

碧 【バカ。さつさと行っちゃえ…】

武田 いや、行かれちゃ困るんだよ。

高山 【すみません、武田さん。】

武田 だからオマエは喋れよ！ なんだ、今度はいったいなんにかぶれたんだ。真佐代 ねえ、碧ちゃん、彼、なんていう宗教に入ったの？

碧・高山 【…エミール創世会。】

武田・真佐代 エミール、創世会？

高山、着流しの裾を翻して退場。  
バイクの音。

武田 あ。おい、ちよつと待てて！

真佐代 あ、ちよつと、碧ちゃん！

武田、追って退場。  
碧、反対側に退場。真佐代、追って退場。

## シーン4 調査と警告

夕刻の公園。ホームレス登場。  
 高林、登場。人を待っている様子。  
 相原、祥子、ゲットした「SAMGO」を誇示しつつ登場。  
 久保、登場。

久保 高林さん！…あ、すいません。（相原たちとぶつかりそうになる）

相原、祥子、退場。

高林 ここよ。

久保 見つけました、見つけましたよ！

高林 なんか判ったの？

久保 これ見てください。（ノートを渡す）高林さんから貰ったリストに載ってる、例の動きのおかしい大物たち。

高林 （紙束をめくる）…嘘。

久保 ね、共通点でしょ。

高林 信じられない…。

久保 十人のうち七人までが通ってるんです。そこに。

高林 エミール創世会。これって、宗教団体？

久保 それがよく判らないんですよ。宗教学人でもないし…。あの、でも、事務所って  
 いうか、場所は突き止めました。

高林 …久保くん。

久保 はい。

高林 久保くん。

久保 はい。

高林 久保くんッ！

久保 はいッ！

高林 でかした。

久保 …。（照れる）

高林 明日、朝イチで乗り込むわよ。

久保 うっす。

高林、久保、退場。

登場の佐久間とすれ違っ。

佐久間、人を待っている様子。

佐々木、登場。

佐々木 佐久間さん。

佐久間 おう、ここだ。

佐久間 ごくろうさん。豆乳飲むか？

佐々木 いや、いいっす。

佐久間 どうだった。

佐々木 駄目です。外務省の欧亜局<sup>おっあ</sup>ってところに行っただんですけど、目星<sup>めぼ</sup>しい情報はない  
 ですね。だいたい、ああいう地域局<sup>ちいき</sup>ってのは国際情勢とか、そういう情報収集が  
 メインみたいなんで、民間人の動きとか、そこまでは掴んでないみたいですよ。

佐久間 そうか。

佐々木 だいたい駄目ですよ、僕あたりが行ったって。連中、エリートですからね。

佐久間 そんなに敷居高いか。

佐々木 いやあ、もう：鼻も引っかけないって雰囲気です。せめて公安あたりから手を回せばいいんですけど。

佐久間 …。

佐々木 …駄目ですよな。

佐久間 そりゃ駄目だよ。上にバレル。

佐々木 相原の件バレたら、謹慎じゃすまないですもんね。下手したらクビかな…。

佐久間 ああ。まあ、クビはどうでもいいんだが…

佐々木 えっ。いいんすか、クビ！

佐久間 どうでもいいんだが、この件で動けなくなるのが困るな。

佐々木 佐久間さん…。なんか僕、最近不安になってきてるんすけど…。

佐久間 まあ、元氣だせ。諦めずにやってくれば、そのうちとっかかりが見つかるさ。

佐々木 …いや、そういうことでは…なくてですね…。

上品そうなOL風の女（永倉）、登場。

OL女 あの…。

佐久間 …はい？

OL女 警察の方でしょうか？

佐久間 …そうですね？

OL女 不賤ぶしつげに申し訳ございません。わたくし、永倉千代と申します。佐々木さま、でしよつか？

佐々木 え…。はあ。

OL女（永倉） 先ほど外務省でお見かけいたしました。

佐々木 あ、はい。私、佐々木です。え、あの、あなたは…。

永倉 …。

佐々木 あの…僕になにか？

佐久間 ええと、永倉さん、でしたか？（手帳を出して）警視庁の佐久間です。佐々木は私の同僚ですが、なにかご不審な点でもありましたか？

永倉 いいえ、不審なことなどなにも。ただ…わたくしの勘違いでなければ、佐々木さまがお尋ねの…

佐久間と佐々木、顔を見合わせる。

佐久間 指貫ですか？

永倉 …（黙って頷く）

佐々木 知っていらっしやるんですね。

永倉 ええ。そういう名前の人物を知っております。

佐久間 永倉さん、失礼ですが…。あなたは外務省のかたなんですか？

永倉 …いいえ…。

なぜかはつきり身分を明かさない永倉を探るように見る佐久間。

佐々木 永倉さん、指貫という男にいつどこで会われたんですか？

永倉 会ったことはありません。  
 佐々木 はあ？  
 永倉 ……これを。ご覧になったほうが早いわ。

永倉、ポケットから、折り畳んだ新聞記事を取り出す。  
 佐久間、手渡された記事を開く。佐々木がのぞき込む。

佐久間 ……遭難の記事ですね。日本アルプスで三人が行方不明…、装備の一部が発見され、雪崩による事故と判明…。

永倉 結局、遺体は発見されませんでした。

佐久間 地元警察署、消防署合同による捜索が続けられているが、救出は絶望的と見られている…。遭難したと見られる登山パーティのリーダーは大学院生指貫…浩二…

佐久間、記事から目を見上げ永倉を見る。

永倉 ……八年前の地方新聞です。

佐々木 死んでるじゃないすか…。

佐久間 ……これが偶然じゃないとおっしゃるんですか？ これが我々の探している指貫だと？

佐々木 そんな筈ないでしょう！ だって、死んでるんでしょうが！ ただ名前が同じだけで…

永倉 佐久間さん。

佐久間 はい。

永倉 できれば…松川を追うのはやめたほうがいいと思います。

佐々木、ぎよつとして永倉を見る。

佐久間の顔に、初めて険しいものがあらわれている。

永倉 ……やっぱりそうですか。狙いは松川源司ですね。マツカワ・プランニングの社長。佐々木 どうしてそれを…。

永倉 諦めてもらえませんか？ 松川という男は、今あなたが考えているよりも遙かに規模の大きな動きの渦中にいます。わたしたちは…偶発的な要素をなるべく排除したいのです。

佐々木 わ、わたしたちって誰でなんですか？

佐久間 大きな動き、というのは…？

永倉 あなたがたの世界では、事件、というのでしょつけど…少し違う。これは犯罪と云うにはあまりにも…そう…荒唐無稽な話なので…。

佐久間 ……

永倉 指貫という男は死んでいる。この世にはいない。この世にいないものを捕まえることはできない。…そう考えていただくわけにはいきませんか？

佐久間 ……交換条件もなし、無条件で手を引けとおっしゃる？

永倉 差し上げられるものはあります。例えば…相原章一の件。

佐久間 ……

永倉 あれはやり過ぎというものですよ、佐久間さん。あれが知れたらどうなります？

佐久間 ……それは警告ですか、永倉さん。

永倉 このままあなたが松川をターゲットにし続けければ、ストップをかけなければならなくなります。今、目立った動きを起こしたくないのです。

佐久間 わたしは刑事なんでね、犯罪を構成しない事件に用はない。あなたの云う規模の大きな事件…だか動きだかには興味はない。

永倉 はい。

佐久間 あなたがどういう立場の人間であろうと、それもわたしには関係ないんです。わたしはわたしの筋を通すだけです。

永倉 ……。

佐久間 ……答えになってますかね？

永倉 ……本当に…噂通りの方でした、佐久間さん。

佐久間 また、お会いできますか？ 永倉千代さん。

永倉 （微笑みを見せ）…失礼いたします。

永倉、退場。

佐々木 なんだから…なんでしょう…あれ。…佐久間さん。

佐久間 ……。

佐々木 なんか、苦虫を噛みつぶしたような顔してますね。

佐久間 そうか？

佐々木 どういうことなんでしょう、今の。

佐久間 判らん。が…

佐々木 はい。

佐久間 動きが足りないようだな。

佐々木 はあ？

佐久間 あの程度の柔<sup>ヤ</sup>な脅ししかかけてこない…。まだこっちが知らないことが多いすぎるんだ。甘く見てるんだよ、やつら。

佐々木 やつらって…？

佐久間 やつらだよ。判らんか？

佐々木 佐久間さん判ってるんですか？

佐久間 ありや政府の人間だよ。しかも相当上のほうだ。

佐々木 セーフって…セーフですか？ え、日本政府？

佐久間 とにかく急ぐぞ。今まで以上にガンガンやれば向こうものんびりしてられなくなる。もっとキツいリアクションが返ってくる。

佐々木 やぶ蛇じゃないすか…。

佐久間 ……いいこと云うじゃないか。それだよ。どんな蛇が出てくるか…。つつきまく

れ、佐々木！

佐久間、退場。

佐々木 ……燃えてるよ、おい…。マズいなあ…もう…。

佐々木、追って退場。

## シーン5 語り(1)

舞台にはホームレスが残っている。  
ホームレスは眠っているのか、動かない。

明かりが変化して、未来のような、または古代のような、モノトーンに近い異空間へと転換する。  
玄妙な音楽が流れ出す。

そこにいるのはホームレスではなく、未来の日本人である。  
仮に彼を語り部と呼ぶ。

語り部と似たような恰好をした、しかし少しずつ色彩の違う人々が、四人、あちこちから現れる。

子供である。  
仮に彼らを子供1〜4と呼ぶ。

子供1〜4、語り部の周囲に集まる。  
のぞき込む。

つんと突ついてみる。

語り部は動かない。  
相談するようにお互いの顔を見合わせる。

子供1〜4、語り部の両手、両足をそれぞれ持って、中央まで担ぎ、床に横たえる。

子供1〜4、それぞれ花束を持ち出し、語り部の体に供える。

ひとり、小さな太鼓を打ち、ひとりが小さな鐘を鳴らし、残りは手を合わせて祈りを捧げる。

しめやかに泣いたりしている。

語り部、むっくり起きあがる。

語り部  
くらっ。

子供1〜4、悲鳴を上げて逃げる。

語り部 死んどらんぞ、わしゃ！ このガキヤ、ホンマ…

語り部、立ち上がって喚く。

語り部 なにをさらす、このガキヤ。しばくぞホンマ、縁起でもない、このガキヤ、なにをさらす…

ぶつぶつ云いながらあたりをウロウロする。

語り部 来い！

子供1〜4 …。(物陰に隠れたり、身を寄せあったりしている)

語り部 来い！ ちうねんホンマ。…ほら来い！

子供1〜4 …。(恐る恐る寄ってくる)



語り部 座れ！ 座れちうねんコソ。コラッ。聞け。聞けちうねんのじゃボケ！ 座れ！…まったくもう…遊びでちうねんとちやんぞ…。

ようやく語り部のまわりに座る子供たち。

語り部 みないるか？ いたら返事せいよ。たちめ！

子供1（たちめ） アイー！

語り部 うたか！

子供2（うたか） ホーイ！

語り部 はやふ！

子供3（はやふ） ウィース！

語り部 よもや！

子供4（よもや） ううう。

語り部 おるな。そしたら呼べ！

子供たち …。

語り部 ワシを呼べ！ 呼べちうねんのじゃボケエ！

子供たち （語り部を指さし声を揃えて）きのとオ！

語り部（きのと）（くしゃみ）うう寒…。え、では、続き。（咳払い）え…う…

どこまで話したかいのう？

たちめ サシヌキ。

うたか サシヌキ。

はやふ サシヌキ。

よもや あいうう。

きのと ああ、サシヌキ出てきたか。ほんならもうじぎや。…まあそういつわけ、みながサシヌキを探しはじめた。そのころ、ニッポンという国になにが起ころうとしているのか、一寸先の未来にどんな運命が待ち受けているのか、臆気にでも知っているのはほんの数人だった。他の大部分のニッポン人は明日も明後日も、ずっとこのままのニッポンが続くと思いきこんでいた。…そしてたったひとり、すべてを知っていたのが…

子供たち サムライガール！（よもやだけは「あうあうあう」と叫んでいる）

きのと …くらっ！ わしが話したんのやないかい！ ホンマに…！しばくぞホンマに…！…とにかく、栄耀栄華を極めたケーザイタイコク・ニッポンが、一夜にして大混乱のうちに崩壊しようとは、当時の人々はよもや…

よもや ああううあああ。

きのと オマエとちやうわ！ 黙っとれ！…！誰もが想像もしなかった。まあ、昔の人は呑気なもんだった。自分を失っていたちうこっちや。…がしかし、計画は着々と進んでいた。一部の人々、つまり、サクマやササキ、タカバヤシなどの、いわゆる「探索者たち」がその気配に気づいた頃には、もう後戻りできないところで事態は進んでいた。その「探索者たち」にしては、自分たちが掴んだものが、目に見えない糸で張り巡らされた大きなカラクリの一部だったとは、その時はよもや…

よもや ああああ、あうあう。

きのと 呼んでへんちうねん！…口縫くぬいつぞコヲ！…まさか気がつかなかった。わけじゃ。がしかし、それも無理もないこと。計画は周到だったし、彼らが知らぬ間に相手取ったのは普通の人間ではなかった。今でこそ誰でも知っている偉大な人間…その名は…

子供たち サムライガアルウ！

きのと ……(目を剥く)

子供たち ……。

きのと ……そういつつちや…。

きのと、立ち上がる。

きのと しかしな…よく覚えておけ。気がつかなかったのはそれだけが理由ではない。人は誰でも、自分が水の中にいるときは水の存在に気がつかぬ。器に盛られている中身の側がわからは、器の形は見えぬ。これは教訓というやつじゃ。もっとも単純な、当たり前だが、その当時のニッポン人には見えていなかったのじゃ。今のおまえたちには想像もつかないじゃろうが、これはお伽噺とげばなしではない、本当にあったことなのじゃよ。おまえたちが生きているこの世界がこのような世界になる前、この国はそついう国だったのじゃ…

子供たち、話が説教臭くなってきたので返屈している。

きのと くらっ！ 聞いたんのか！…聞けっ！…大事なとこやぞ！…まったく…。

きのと、座り直す。

きのと ……ともあれ、「探索者たち」による探索は続いた。そして彼らはいずれ気がつくことになる。自分たちが、ニッポン人としては最も真相じんじやうに肉薄にくはくした人間であったことを…。

明かりが変わっていき、空間は現代に戻ってゆく。

## シーン6 アナグラム

公園。子供たちは退場し、ホームレスだけが残る。  
佐久間と佐々木、登場。佐久間は相変わらず豆乳

佐久間 確かに遭難事故に遭ってるわけだな。

佐々木 (照会資料を見ながら) はい、確認とれました。

佐久間 遺体は発見されてないんだな？

佐々木 ええ。

佐久間 (佐々木が渡した写真を手に) 生きてりゃ三十代半ば、か。

佐々木 やっぱり別人ですよ。こっちの知ってる指貫はピンピンしてて外国と行ったたり

来たりしてマイル溜めてるんですから。

佐久間 ふん…。まあ生きてようが死んでようが、こっちは指貫と松川の繋がりさえ立証できればそれでいいんだ…が。

佐々木 なんです？

佐久間 その記録、指貫以外の遭難者のこと書いてないか？

佐々木 ええと…ああ、あった。登山チームのメンバー三名は、いずれもセント・ヴァランティーヌ又短期大学の大学院生で、同大学院の社会学研究室、川音ゼミに属する。リーダー指貫浩二の他、相馬晋作、なぐち 樋口加代。

佐久間 それが引っかかるんだよなあ…。

佐々木 なにがです？

佐久間 おまえも鈍いなあ。豆乳を飲め、豆乳を。

佐々木 いや、遠慮します。なにが引っかかるんですか。

佐久間 嫌いか、豆乳。

佐々木 いやあなんか喉に引っかかるんですよ。

佐久間 なにが引っかかるんだよ。(不満げな豆乳ファン)

佐々木 なにが引っかかるんですか。

佐久間 だから豆乳だろ。

佐々木 豆乳の話じゃなくて。

佐久間 じゃあなにが引っかかるんだよ。

佐々木 引っかかるのは佐久間さんでしょうが。

佐久間 俺は毎日飲んでんだよ！

佐々木 なにを云ってますか！

佐久間 しょうがないだろ、着替えが間に合わないんだから。

佐々木 佐久間さんそれ云っちゃお終しまいでしょ。

佐久間 (佐々木から記録用紙を奪う)…あの女の名前覚えてるか。

佐々木 日本セーフの？ 永倉千代でしょ。

佐久間 …その、遭難したメンバーの最後の女。

佐々木 (用紙を受け取り) 樋口加代ですか？

佐久間 ローマ字にして並び替えるとな、永倉千代になるんだよ。

佐久間、考え込みながら退場。

佐々木 …つまり、どういことですか…。ちょっと佐久間さん…！

佐々木、追って退場。

## シーン7 エミール(1)

エミール創世会。道場、のような空間。  
高林と久保、登場。

久保 ちよつと高林さん！

高林 しっ！

久保 これじゃ、これじゃ不法侵入罪が犯してますよ！

高林 日本語が変よ。まさかビビってるわけじゃないでしょ？

久保 思いつきりビビってるんですけど。

高林 見つからなければだいじょうぶ。

久保 無茶だなあ…。

敵かな音楽が流れて、宗教風な服装の男(相馬)と女(後関)が登場。

高林 なんかも出てきたわよ！

久保 …見るからに新興宗教っぽいですねえ。

高林と久保の背後から、真佐代と碧が抜き足差し足で登場。

真佐代 碧ちゃん、こつちこつち！

碧 【ちよつと待ってよう。】

久保 (声に驚いて振り向く) おわ。

真佐代 え。

高林 しいーッ！

四人、狭い隠れ場所に満杯状態のまま、しばし硬直する。

真佐代 あのお…あなたがたは…

高林 しいっ。とにかく静かにして！

真佐代 は、はい。

碧 【あつ。あたし、この人見たことある！】

真佐代 そうお？ あら、そう云えば…

碧 【テレビテレビ！】

真佐代 あ、あらあらあら！ あなた高林…

高林 しいーッ！

真佐代 あ、ごめんなさい。しいーッ！

道場では、似たような恰好をした高山が登場。

碧 【真佐代さん！ あれ！ あれ！】

真佐代 右近ちゃん… ああいうかつこ似合うわねえ、彼。

碧 【似合っていない！ かつこわるい！ バカみたい！】

真佐代 そうね、碧ちゃんにしてみればね、ごめんごめん。

久保 だから暴れんなって云ってんだよ！

真佐代 碧ちゃんは暴れてません、喋ってるんです。

高林 だから喋らないでっば！

道場では、宗教風女（後関）の前に高山が畏まっている。

宗教女 汝高山右近。決心なされたか。

宗教男 俗世との関わりを一旦捨て去り、無垢無穢なる己に還り、宇宙意志に従って天命を全うする覚悟はありますか。

高山 はい。

宗教女 ではエミール創世会の言霊たる射干綵舟齋様の名において、

宗教男 汝高山右近を、階位の八、パールサファイアと為す。

宗教女 有り難く拜命せよ！

高山 帰依し奉る…！

音が高まって、なんだか洗礼のようなことが、オゴソカにかつ仰々しく行われている。

真佐代 うわあ…ダイレクトに奉っちゃってるわあ、右近ちゃん。

碧 【バカみたい！ もう最低！】

真佐代 しいっ。とにかく今日は最後まで成り行きを見ましょ。

音が止む。

宗教男 と、いうわけで。

高山 はあ。

宗教男 今日から君は僕らと一緒に働くことになったわけだ。

宗教女 よろしくね。

宗教男 まあ、わかんないことがあったら聞いてね。あ、おれ相馬っていうの、相馬晋作。

宗教女 後関珠子です。よろしく。

高山 あ、高山です。

宗教男（相馬） いやあ、でもよかったよ。この頃なんか矢鱈と忙しくってさあ。二人じゃキツイって云ってたところだったんだよね。

宗教女（珠子） ねえ。

相馬 なんか政治家みたいなオジサンとか来ちゃってさ。氣イ使うんだよね、結構。…まあ、それでも、時給がいいからさ。辞める気にはならないけどね。

高山 時給…？

珠子 交通費も全部出るのよ。

高山 …あの。

相馬 ん？

高山 信者…なんですよね。

相馬 もちろんだよ、俺、階位の三、バイオレットオパール。

珠子 あたし、あたしモカブラウンエメラルド。

高山 信じてらっしゃるんですよ、その…綵舟齋さまを。

相馬・珠子 …。

高山 …宇宙意志、信じてるんですよ。

玄妙な音楽が再び始まる。

相馬 それではわがエミール創世会の言霊たる、射干綵舟齋様をお迎え申す。いざ。

珠子 いぞ。いぞぞ。  
 相馬 いぞや、いぞや。(小声で)ほい。  
 高山 い、いぞや、いぞや。  
 相馬・珠子 いぞや、いぞや。

中央上座が空く。そこに光が集まる。音が高まる。

高林 出るわよ…。

久保 え、なにが…

高林 教祖様。

ゆっくりと、射干綵舟齋、登場。信者たち平伏。

綵舟齋 (軽く手を上げて)おはよ。

相馬 綵舟齋さまにはご機嫌うるわしく。

珠子 本日も宇宙意志によりこの地に導かれし懊悩せる魂を、

相馬 教え導き給わんことを。いぞ。

珠子 いぞや。

高山 い、いぞいぞ…

相馬と珠子に、制止される高山。ここは唱和しない場面らしい。

綵舟齋 今日は誰が来てるの？

相馬 外務省の遠藤様がお見えになっております。

綵舟齋 遠藤さん？ ああ、フラワーパークの件か…。

珠子 午後より資源エネルギー庁の加賀谷様、日本銀行の柘植様、亜佐ヶ谷商店街連合の岡本様、となっております。

綵舟齋 商店街？

珠子 宇宙意志の導きによる、町内会費の徴収と思われませう。

綵舟齋 …あ、そう。

相馬 それでは、さっそく…

綵舟齋 ちよつと待って…。

綵舟齋、なにかを感じて相馬たちを制する。

久保 …どうになりましたア…。

高林 …しっ。

久保 …。

真佐代 こつちを…見てる…？

碧 【ばれてる。】

綵舟齋、じつと見つめている。

呼吸まで殺して凝固している四人。

綵舟齋 …珠子さん？

珠子 はい。

綵舟齋 お茶を。

珠子 はっ？

綵舟齋 それとも珈琲がいいかしら？ ええ、珈琲にしましょう。四つ…お願いします。

珠子 珈琲ですか？ あの…でも…

綵舟齋 ええ、私は珈琲は駄目。お客さまのぶんよ。

珠子 は？

綵舟齋 相馬さん、遠藤さんに今日は帰っていただくようにお伝えして。

相馬 承りました。

相馬、退場。

綵舟齋 珠子さん、息をしなくちゃ駄目よ。…珈琲を。

珠子 (我に還つて) あ、はい、すぐ…

珠子、退場。

高山 あの…僕はいてもいいんでしょうか？

綵舟齋 ええ、いて下さい。あなたのお客さまでもあるようですから。

高山 は？

綵舟齋 もういいですよ、出ていらっしやい。

高林たち …。

綵舟齋 今さら出てこれないかしら？ それとも私に踊りでも踊れって云うの？

高林、決心して隠れ場所から出ていく。

それに尾ついて、久保、真佐代、碧、ソロゾロと出ていく。

高山 …碧！

綵舟齋 こんにちは皆さん。エミール創世会へようこそ。

高林 なんでもお見通しなんですネ。

綵舟齋 あなた…どこかでお見かけしたわ。マスコミのかたね？

高林 関東テレビの高林と申します。

久保 同僚の久保です。

綵舟齋 (頷いて会釈を返し、視線を真佐代へ)…。

真佐代 …あの、

綵舟齋 (碧へ視線を移して) まあ、あなた…可哀相に…

綵舟齋、碧を連れ出し、集中するよ様な仕草。

綵舟齋 …四つ…五つの時ね…。あなたはそれまで喋ることができた…。でも五つの時

に事故に遭った…。それ以来あなたは声をなくしてしまった…。

久保 (小声で真佐代に)…当たってるんですか…？

真佐代 …。(小さく頷く)

綵舟齋 …とても深い…暗いところに…あなたはいた。…でも今は…。

高山 …碧…。

綵舟齋 (ちらりと高山を見て)…そう、なるほど…。幸せな方ね。羨ましいわ。…今

はこんなに明るい光に包まれている…。でも…

高山 …でも？

綵舟齋 もし、あなたがなくしてしまったものを取り戻せるとしたら…？ あなたは今

よりももっと自由になれる…。

高山 あの、それは…  
 綵舟斎 とても難しいけれど…でも、たぶん…。  
 高山 声が…喋れるようになるって云うんですか！  
 綵舟斎 可能だと思います…。時間がかかるけれど…。私なら…。  
 高山 ……そんな…。

綵舟斎、込めていた気をふっと抜く。

高山 碧！ 喋れるようになるんだよ！…碧ってば！

真佐代 右近ちゃん。駄目。やめなさい。

高山 だって真佐代さん…

真佐代 いいから。黙んなさい。

高林 ……大した演出ですね。教祖様、とお呼びすればいいのかしら。

綵舟斎 射干ひびつぎでけっこうですよ。高林さん。

高林 知ってらっしゃったんじゃないんですか？ 例えばその彼から、彼女のことを聞いていたとか。

高山 なにも喋ってないですよ、碧のことは。ホントです。一言も云ってない！

高林 でも調べようと思えばいくらでも手はあるわ。

綵舟斎 みんなそう云うわ、最初は。自分の理解できない力を認めたくない…。

高林 納得すれば認めますよ。

綵舟斎 納得したくないんでしょう？ どうすればいいのかしら？ なんならあなたのこと読みましょうか？

高林 お断りします。他人の過去に土足で踏み込むような真似はごめんだわ。

綵舟斎 存外、保守的な方なのね。でもそのレトロなところがあなたの原動力になっている。男に負けたくない。馬鹿にされたくない。どうしてそんなに突っ張っているのかしら。……そう、原因があるのね…。

高林 やめて下さい。聞きたくないわ。

綵舟斎 ホントは気がついてるんでしょう？ 男に負けまいと思うこと自体、勝ち負けっていう基準でしかものを考えられない自分自身…、あなたが嫌っている思考法に、あなた自身が囚われてるっていうこと…。

高林 ……

綵舟斎 一般論よ。そう睨まないで…。私が逆に読まれそう…。なんにもあなたの心の秘密まで暴くつもりはないわ。…顔色が悪いわよ、高林さん。

高林 ……

真佐代 ずいぶん趣味が悪くなったんじゃないの？ あなた。

綵舟斎 ……

真佐代 あたしのこと読めるかしら、例えば高校時代のこと、とか。

綵舟斎 ……

真佐代 高校時代にね、凄く引つ込み思案で、無口な子がいたのね。あたしは騒ぐほうのグループだったからあんまり口もきかなかったけど、名前は覚えてる。

綵舟斎 そつか…あなたは…

真佐代 変わったわ、あなた。最初判らなかつたもの。…水谷さん、でしょう？ 水谷

芳美さん。ヨッシーって呼ばれてた。

久保 知ってるんですか、この人を！



真佐代 ええ。わたしの同級生よ。

綵舟齋 ……久しぶりだわ、本当に。真佐代さん……だったかしら。ごめんなさい。上のお名前を忘れてしまったみたい……。

真佐代 そんなことどうでもいいの。無断で上がり込んで勝手にこと云うようだけど、友だち甲斐にひとつお願い聞いて貰えないかしら。ねえヨッシー。

綵舟齋 ……。

真佐代 この子はね、確かにあなたの云う通り、……とても辛い思いをして来たの。そりゃあ周りの人の助けもあったけど、でも結局自分一人でここまでやってきたの。だから惑わせるようなことを云わないで。高山くん、あなたも。

高山 真佐代さん……おれ……

真佐代 あなたが碧ちゃんのためを思ってるっていうことは、ちゃんと判ってるわよ。でもね……それでもやっぱりあなたは碧ちゃんじゃないの。……もちろん、あたしもね。(綵舟齋に)あなたにどんな力があるのか、あたしなんかには判らないけど、あたしにはあなたのやってることは只の暴力に見える。

綵舟齋 ……。

顔を伏せ表情を隠した綵舟齋はびくりとも動かない。

真佐代 帰ります。勝手に上がり込んでごめんなさい。高山くん、碧ちゃんをお願いします。

高山 は、はい。

久保 あ、ちよ、ちよっと……

久保、慌てて高林の顔を窺うが、高林はじつと黙って綵舟齋の様子を見つめている。綵舟齋は顔を伏せ、肩を震わせている。笑っているのである。

真佐代 なにか可笑しいかしら？

綵舟齋 (笑いながら)……思い出した…。そう、あなた、昔からそんな人だった…。とてもシンプルで、直裁的で、見ていていつそ気持ち良いくらいに……お目出度い人だったわ。

真佐代 ありがとう。誉め言葉と受け取っとくわ。

綵舟齋 偶然だったわね、本当に…。世の中にはいろんな偶然があるけど、これはあまり楽しい偶然じゃなかった……。

綵舟齋、なにやら合図をする。  
相馬、珠子、すつつと登場。

久保 高林さん……なんか、まずい感じっすよ……。

高林 ……。

綵舟齋 ごめんなさい。あなた方、このまま帰すわけにはいかないの。

音楽が高まる。  
暗転。

## シーン8 スプレー

国府田祥子の部屋。  
相原がいる。

相原 祥子おおお。まだかああああ。

手には新品「サムライでGO!・Vの暁のドラゴン伝説」が。

相原 待ちきれないいいいい。いつまで買い物してんだあああ。…クソ、やっちなうぞ。カセットを装着してしまつぞ。…そうだ、入れるだけなら…イヤしかし…半分だけでも…イヤイヤいかん…でも、あ、あ、体が勝手に…! あ、あ、挿入…して、しま、う、いやあいかああん!

床を転げたりしている。なんだか幸せな光景ではある。

相原 「絶対ぜつたいひとりでやっちな駄目だからね。始まつたら止まんないんだから、ちゃんと夜食とか買つとかなきや駄目でしょ。焦らないで待つ、て、て。…」と来たもんだああああああああああ!

チャイムの音。転げていて気がつかない相原。

相原 うおりやああああああああ。

ドアが開いて、地味な勤め人風の男と女が入ってくる。

地味男 あの一…おじやますう。

地味女 おじやましてしまいましたあ…。

相原 むほおりやああああああああああ。やりたい! 早くやりたいいいいいい!…はつ。(と訪問者と目が合う)

地味二人 …。(笑いを堪えている)

相原 …な、なんですか。誰ですか。

地味男 あ、どうも失礼しました。ええと私、日の出経営研究所のタナカと申します。

地味女 私、同じく日の出経営研究所のスズキと申します。

地味男(タナカ) ドアが開いていて、中から獣じみた叫び声が出たものでつい…勝手に上がって申し訳ありませんでした。

地味女(スズキ) チャイム、鳴らしたんですけどね…。

相原 …あ…どういつ…

タナカ お迎えにあがりました。

相原 …迎え? なんの。

タナカ 実は、一緒に来ていただきたいところがありました。

相原 …。どい。

タナカ どこ? どこと云われて…えー、まあ、どこへともなく。

相原 なんて。

タナカ なんて? なんてと云われて…えーと、まあ、なんとなく。  
相原 なんなんだよ!

スズキ (たまりかねて割って入る) あの、実はですね、ある方が相原さんを探してい  
らっしゃいます。

相原 ある方？

スズキ ええ、それですね、相原さん、ひよっとしてその方には会いたくないんじや  
ないかなあと。

相原 はああ？

スズキ 私どもとしましても、出来ればその方と相原さんを会わせたくないなあ、と。  
タナカ でも相原さんがここにいらっしゃる限りいずれ二人は出会ってしまうであろう  
なあ、と。

スズキ そこで止むを得ずこうしてお迎えに上がった次第です。

相原 なに云ってんだか全然わからん！ だいたい、誰だよ、誰が俺を捜してるってん  
だよ。

スズキ それは…それは云わぬが花、かと。

相原 誰なんだよ！

スズキ …。

タナカ ストックホルムでの思い出話などして、旧交を温めたいと、こうおっしゃって  
る方です。

相原 …指貫…！

タナカ はい。

相原 指貫が俺を…冗談じゃねえ。俺は…俺はなにも…

タナカ しゃべってない、ですか？ それは私どもに申されましても。

スズキ ですからそういう無用の誤解を避けるためにもですね、ぜひ今のうちに別な場  
所へ…。

相原 …いかねえぞ。行ってたまるか！

スズキ あの、そうではなくてですね…。

タナカ あ、名刺差し上げるの忘れてました。

タナカ、内ポケットから小型のスプレー缶を取り出して、何気なく相原の顔めがけ  
てスプレーする。

相原 うあ。

あっという間に床に崩れ落ちる相原。

スズキ あっ。

タナカ ん。

スズキ ちよつとお。

タナカ だってじれったいじゃん。

スズキ …。

タナカ …。

スズキ 誰が運ぶのよ。

タナカ …。

スズキ もう…見境なくそういうことするかなあ。

タナカ いいですよ、私が担いでいきます。

タナカ、相原を背負おうとする。  
祥子、登場。

祥子 たっだっいまっ！

タナカ・スズキ ……。

祥子 ちよつとなによ…！

タナカ、素早く飛び込んで祥子の顔にスプレー！  
床に崩れる祥子。

タナカ ……。

スズキ ……あゝあ。

タナカ しょうがないじゃん…！

スズキ もう、どうすんのよ。ほつとくわけにいかないわよ、これ。

タナカ ひとりづつひとりづつ。

スズキ もう…。いいわけ？ こんな杜撰ずさんなこと…。

タナカ しょうがないですよ、とにかく、今、この人を指貫さしぬきに会わせるわけにはいかな  
いんだから。そつでしょ。

スズキ そりゃそつだけど…。

その時、ドアチャイムの音。

タナカ・スズキ ……。

大慌ての二人。タナカ、ドアから覗いて戻ってくる。

タナカ (超小声でスズキに) サシヌキ…！

パニックの二人。とにかくどっかに隠れる。  
指貫、入ってくる。

倒れている相原、祥子を見下ろす。

暗転。

## シーン9 トライアングル

センターの床に倒れた相原にシートが覆い被さっている。  
センター最前列エリアに佐久間が座って本を読んでいる。  
下手エリアに仕事を終えたエミール創世会の三人がいる。

綵舟齋 町内会費って高いのねえ…。

珠子 しかも取り立てがキツツイですよね。

綵舟齋 あああ、今日も一日何事もなく終わったわねえ。

相馬 どうもお疲れさまでした。

珠子 お疲れさまでしたあ。

綵舟齋 はあい、それじゃまた明日ね。

別れの印を結ぶ三人。 綵舟齋、退場。

相馬 さて、と、牛井でも喰って帰るかあ…。

珠子 …ねえ、相馬さんさあ。

相馬 ん？

珠子 何事もなかったつけ？

相馬 なにが。

珠子 …あたしね、なんか、ちょっと…。

相馬 なに、どうしたの。

珠子 …今日の朝の記憶が飛んでる感じがするの。なにしてたのか思い出せなくて…。  
思いだそうとするとね、珈琲淹れなきゃ、珈琲淹れなきゃって…頭の中で。

相馬 珠子ちゃん。

相馬、珠子の額に手をかざす。

センター前エリアに佐々木が登場。佐久間の隣に座る。

佐久間 おう、お疲れ。

佐々木 佐久間さん。この店止めましょうよ。

佐久間 なんだ。世話になったんだから。

佐々木 (店の奥に) 牛井大盛りね！…なに読んでんですか？

佐久間 ん、これ。(背表紙を見せる)

佐々木 日本創世論、川音慶一郎…。そんなもんまで読んでるんですか？

佐久間 途中まで読んだんだけどな、なかなかいいこと云ってるぞ。

佐々木 なんの本なんです？

佐久間 まあ哲学的な世直しの本でとこかな。で、この教授のことわかったのか？

佐々木 変人だったみたいですよ。あちこちの大学を渡り歩いてますね。享年七十三歳。

八年前、脳溢血で亡くなったときに職してたのが例のセント・ヴァランティーヌ  
短期大学です。

佐久間 じゃあ指貫たちは川音教授の最後の教え子ってわけか。

佐々木 指貫たちって…佐久間さん、この指貫がああ指貫だと本気で思ってるんですか？

佐久間 遺体は発見されていない。自分が死んだことにしようと思えば、できるだろ。

佐々木 なんのためにそんなことするんです。

佐久間 法律上存在しない人間になることで、得することはいろいろあるよ。特に自分の存在を隠そうとする奴にはな。

佐々木 なんのために隠すんです。

佐久間 俺もそれが知りたいよ。聞いてみたいね、永倉千代サンあたりに。

サラリーマン、登場 座る。

サラリーマン (奥に向かって) 大盛りちょうだい。

佐々木 あ…。佐久間さん、僕、先に戻ってます。

佐久間 ああ？ だっておまえ、牛丼まだだろ。おい！

佐々木、そそくさと退場

上手エリア。タナカ、遅れてスズキ、登場

タナカは携帯を耳に当てている。

タナカ どうです。

スズキ 駄目。見つからない。ナカムラさん、連絡は？

タナカ 駄目。つかない。

スズキ まずいわよまずいわよまずいわよ。

タナカ そんな三階建てで云わなくてもわかってます！…駄目だ、圏外だ。

下手エリア。

相馬 珠子ちゃん。それじゃお疲れさま。

珠子 お疲れさま、また明日。

相馬 あ、珠子ちゃん、そう言えば、今日の午前中、なんか変わったことあった？

珠子 変わったこと？…ううん、全然。いつも通りだったけど。なんで？

相馬 ああ、いやあ、それならいいんだ。…真っ直ぐ帰るの？

珠子 うーん、おなか空いちちゃったから。牛丼屋にでも寄ってく。

相馬 じゃ、また明日。

珠子 じゃね。

相馬と珠子、別れて退場

センター前エリア。佐久間、本を閉じて立つ。

佐久間 (奥に) ちこそうサン！

サラリーマン …おい！ 大盛りだよ！…なにやってんだよ。

佐久間、退場

上手エリア。

スズキ ねえ、まだ？

タナカ 僕に云わずにドコモに…(自分の携帯を見る)「PHONE」に云って下さい！

スズキ (自分も携帯をかけている)…あ…かかった！…かかったぞ！ (携帯を見る)

IDO！ IDOですよ！

タナカ (はしゃぐスズキから携帯を取り上げて) ナカムラさん！ 指貫が相原章一を

拉致しました。同居人の女性も一緒です。行く先が掴めません。どこを探したら……はい。…はい。わかりました、向かいます。ナカムラさんも急いで…！

ススキ、タナカ、退場。

サラリーマン 牛丼。ぎゅーどーん。まだー！

珠子、センター前エリアに登場。椅子に座る。  
サラリーマンと目が合う。

珠子 …。

サラリーマン …。

珠子 … お父さん。

サラリーマン(父) おまえか…。

珠子、席を立てて帰ろうとする。

父 珠子！ おまえ、今何してんだ。俺が単身赴任でこっち出てきたの知ってるだ

る。なんで連絡一本寄越さないんだ。

珠子 別に話すことなんかないから。

父 いいから座れ。座りなさい！

珠子 やめてよ、こんなところで！ みつともない！

父 俺はな、こっちでおまえと一緒に住んでもいいと思ってなあ…

珠子 冗談でしょ。

父 どうせおまえ、安いアパート暮らしなんだろ、お父さんはおまえのためを思って  
だなあ…

珠子、逃げるように退場。

父 珠子！ 待ちなさい！…(店の奥に)おい！ こら！ 大盛りって云ってたんだ！…

珠子！…大盛り！…珠子！

父 大盛りに後ろ髪引かれながらも、珠子を追って退場。  
シートをかぶせられた相原だけが残っている。

## シーン10 相原・指貫

指貫登場。シートを剥ぎ、後方に座る。  
相原、覚醒し身を起すが体に力が入らない。

指貫 ああ、そのままです。君が相原章一くんか。

相原 ……

指貫 僕が指貫浩二だ。初めまして、というべきかな。

相原 ここは…どこだ…。なんで俺を…。

指貫 ん？

相原 おれはあんたのことなんか知らない。知っているのは噂だけだ。

指貫 どんな噂だろう。

相原 あんたが北欧からソ連にかけて…

指貫 旧ソ連だね。

相原 あのへん一帯で動き回ってるってことだよ。

指貫 なるほど。それから？

相原 それだけだよ！ 他にはなにも知らねえ！

指貫 警察はどこまで知ってる？

相原 そんなこと知るかよ！ なんで俺が！

指貫 それはこっちが聞きたいな、相原くん。

相原 ……

指貫 相原くん、確か君には逮捕状が出ている筈だね。その君が、どうして今ここに  
いるのかな？

相原 ……

指貫 ……警察と取り引きしたろう？

相原 違う！

指貫 君が逮捕されていれば、こんなことにはならなかった。だが君はどういうわけか  
娑婆にいる。それで僕は思った。これはこっちの想像以上に情報が漏れはじめて  
いるんじゃないか、と。

相原 おれはなにも知らない！

指貫 そしてその、許容範囲を超えて漏れた情報を、相原くん君が握っていて、だから  
こそ、警察との取り引きが成立したんじゃないかなろうか、と。

相原 違う！ 佐久間ってデカが…あ、あいつには今喋った以上のことは喋ってない！  
そしたら向こうが勝手に逃がしてくれたんだよ！

指貫 ちょっと信じ難い話だなあ。君は知らないかもしれないけど、佐久間翼って刑事  
はね、学生時代についた渾名が「暴走機関車」、走り出したら燃料が尽きるまで  
突き進む、そういう時代錯誤な熱血刑事なんだよ。

相原 ……

指貫 教えてもらえないかな。君のとおきのおきのネタを。

相原 ……俺は。

指貫 駄目か。

指貫、左手を内ポケットに手を入れる。



相原 よ、よせつ。  
指貫 心配するなよ。これだよ。

指貫、取り出したシガレットケースを振ってみせる。

指貫 君にさ、そのネタをあちこちでバラまかれると、困るんだ。近々また日本を留守にするんでね。その前に話し合っておきたかったんだよ、君と。どうかかな？  
相原 知らないものは知らないんだよ…。

指貫 そうか、仕方がないな…。

指貫、ポケットに突っ込んだ右手を抜きざま、小型拳銃で相原を無造作に撃つ。

相原、倒れる。  
突然、男の音がする。

タナカ（声のみ） ああ、遅かった！

タナカ、スズキ、登場。

タナカ あああ、やっちゃったんですね、困ったひとだ…。  
スズキ ひどい…。どういふ神経なのよ、まったく。

タナカ、スズキ、倒れた相原の様子をのぞき込む。

指貫 おまえら…誰だ。

スズキ だから云ったでしょ、もう、今になってこんなこと…。

タナカ 僕に云われたって…。

指貫 誰だって云ってんだ！ 答えろ！

タナカ 日の出経営研のタナカです。

スズキ 同じくスズキです。

指貫 …なんだそれは。どこの傘下だ！

タナカ いいんです知らなくて。

指貫 おい、こっち向いて喋れ！

スズキ ねえ、いいの、このままほっといて。

タナカ だってしょうがないよ、この人、僕らの担当じゃないし。

スズキ 担当者どこ行ったのよ。

タナカ 連絡したからもう来ますよ。

指貫 おい！ こっち向けて云ってんだ！ 担当者ってなんだ！

タナカ だからあなたの担当者ですよ、サシヌキさん。

足音がする。

タナカ ほら来た。

スズキ 本物に聞いてもらいなさい。

指貫 本物…どういう意味だ！ おまえらいい加減に…

スズキ 指貫さん！ こっちのサシヌキさん、どうにかしてよ！

指貫と呼ばれた新たな男、登場。相原の死体に近寄る。

新たな男 …間に合わなかったのか。

タナカ この有り様ですよ。ちよつと拙ますいですね。

スズキ どうするんです、指貫さん。  
 新たな男 その名前で呼ぶなよ、規則違反だ。  
 スズキ こうなったら規則も豚足もないでしょうに。そうでしょ、相馬くん。  
 タナカ うわ、びっくりした。いきなり…僕を巻き込まないで下さいよ。  
 新たな男 こうなる前になんとかできなかったのか、その佐久間って刑事にそれとなく警告するとか…。

スズキ そっちは「永倉千代」が接触してるんですよ。よけい勘ぐられますよ。

新たな男 (大きくため息。指貫に向かって) 失礼。日の出経営研究所のナカムラと云います。ああ、名刺切らしてますんで。

指貫 おまえら、いったい何者だ。

新たな男(ナカムラ) 指貫さん、あなたに伝言があります。今回の北欧行きが最後の仕事です。とにかく安く大量に、あらゆる種類の穀物の苗を仕入れて下さい。品質は問わない。あのあたりはチエルノブイリが近いんで、買い叩ける筈<sup>はず</sup>。

指貫 な…なんだ、おまえは…

ナカムラ 驚きましたか？ 松川氏からの指令とそっくり同じなもので？ それでいいんです。松川さんがあなたにそう指令するように仕向けたのは、あなた自身なんですよ、指貫さん。

ナカムラ 思い出しましたか？ 自分が誰のために働いているのか。なんのために松川氏に貼り付いて彼を操っているのか…。

指貫、動物的な危機感から、無意識に銃をナカムラに向ける。

ナカムラ まだ思い出させませんか。じゃあ、ヒントをあげましょう。

ナカムラ、銃をまったく意に介せず、すつと右手を指貫の顔の前にかざす。

ナカムラ …女のサムライ。

銃を握る指貫の手が、だらんと下がる。

ナカムラ さあ、もう帰りましょう。そしてここを出たら、ここで起きたことはすべて忘れるんです。いいですね。

指貫 …。(放心状態で頷く)

ナカムラ ご機嫌よう、指貫さん。

指貫、ゆっくりした足取りで退場していく。

スズキ で…？

ナカムラ で…って？

スズキ どうするんです？

ナカムラ 女の子は気がつかないうちに部屋に戻す。あとは…このままだ。

スズキ このままア？ でもそれじゃ…

ナカムラ ああ、殺人事件だ。警察が動くな。

スズキ 拙いでしょうが。

ナカムラ 関わり合いを最小限にするのが規則なんだ。仕方がない。これで俺たちが死体を始末したりしたら、おそらく余計ことがこじれる。…関東テレビの高林はどうしてる？

タナカ エミールまで辿り着きましたよ。あそこを連絡所に使ってる七人のリストまで手に入れてます。時間の問題でしょうね。

ナカムラ 佐久間は？

スズキ 目立った動きはなし。でも…あの新聞記事を見てるから…

タナカ すぐ到達しますよ、川音ゼミまでね。

ナカムラ それにしても「永倉千代」があそこまで裏目に出るとはなあ…。

タナカ 最大の誤算でしたね。

ナカムラ 制御が効いてるのは「相馬晋作」だけか。

タナカ あそこは特別です。縁舟齋がある程度のことを知ってますからね。

スズキ だけど川音先生のラインを辿られたら…遅かれ早かれ追いつかれるわよね。

ナカムラ ここまで異常なくらい順調に運んだ。最後の最後は秘密もバレる、騒ぎが広がる。時間との追いかっこになるんだ。俺は、ここが限界だと思っ。

タナカ コントロールを放棄するんですか？ でも僕らにその決定権は…

ナカムラ 連絡を取ってきた。責任者にな。

タナカ サムライに？

ナカムラ ああ。結果はGOサインだ。リモコンの回収にかかる。

タナカ いいよ…か。

ナカムラ 川音先生の思想を現実のものにしようとしたのは彼女だ。彼女の意志がすべてを動かしてきたんだ。決めるのは俺たちじゃない、彼女だ。

スズキ サムライがそう決めたんですね？ もうなにも隠す必要はないって。

ナカムラ ああ。

タナカ 川音先生もそう呼ばれてましたね、最後のサムライって。サムライの遺志を継ぐ、女のサムライ、か。

ナカムラ (ちよつと笑って) 今の日本に、男のサムライなんか居ないさ。

暗転。

## シーン11 集合

武田の店の倉庫。武田と佐久間がいる。

武田 ……どうということなんだ！ おまえどういふつもりで彼女を行かせたんだ！

佐久間 俺が彼女を行かせたわけじゃない。彼女は彼女の意志で、出ていったんだ…

武田 意志だと！ 意志が聞いて呆れるぜ。いいか、これは口止めされたが、云わせて貰うぞ、彼女はな、妹を殺されてるんだ。

佐久間 ……

武田 医者がかっかりしてりゃ、直る病気だった。それが、あちこち弄くりまわされて、あげくの果てに院内感染だ。医者に…医学に殺されたんだ。運が悪かった。そう云つちまえればそれだけのことだ。だけどそれで終わりになるか？ 終わらせられるか？

佐久間 そうか…。

武田 そうだよ…。だから彼女にとってこれは復讐でもあるんだよ。

佐久間 だからって…ただと…それならなおさら…

武田 ……

佐久間 ……

武田 ……まだおまえだよ。

佐久間 ……

佐久間、慌てて台本らしき冊子を取り出して捲る。

武田 「それならなおさら彼女を止める権利は俺にはない」だ。

佐久間 あ、まだそこか…。

武田 おまえ、ちつとも覚えてねえなあ。

佐久間 当たり前だろ。俺はデカだぞ。

武田 手帳取り上げられた癖に。

佐久間 まだクビにはなってるない。

武田 頼むよホント。セリフだけは入れてよ。

佐久間 だいたいセリフが臭すぎるだろ、これ！

武田 しょうがないだろ、もともと高山の役なんだから。あいつには似合うんだよ。

佐久間 俺にはミスマッチだ。

武田 だからいい易いように云い換えていいって。

佐久間 だいたいなんで俺が！

武田 また。何度云わせるかなあ。

佐久間 ……

武田 男一匹、借りは返す、って見栄切ったの佐久間ちゃん、あんたでしょ。

佐久間 だからってなあ…。

武田 そりゃ、おまえが最前線でアクション映画みたいに飛んだり跳ねたりしてりゃ俺だって諦めたさ。ところがギッチョン、謹慎だって？ なんてまあタイミングのいい。

佐久間 わかった、もう云うな。

武田 ……なんだおまえ、怒ってんのか。  
佐久間 ……わかるのか。

武田 何年つきあってると思ってんだよ暴走機関車と。……堪えちまってるわけか。  
佐久間 ……ああ。抜かったよ。…相原が殺られたのはたぶん俺の所為だ。やったのは指貫、やらせたのはたぶん……松川だ…。

武田 そいつか、おまえがどうしても拳げたくて、ずっと必死こいてる相手は。  
佐久間 ああ。…デカになりたての頃にな、手酷くやられた。あいつがまだマルBの幹部だった時代だ。そのまま勝ち逃げだよ。今じゃ青年実業家サマだ。

武田 ふうん。

佐久間 このまま引っ込めねえ。

武田 手は打ったんだろ？

佐久間 やるだけ全部やった。佐々木が走り回ってる。

武田 なら、じりじりしてねえで、自分のやるべきことをやるんだな。

佐久間 ん？

武田 (台本を奪って) ホレ、アタマっからもう一回。

佐久間 ……。

稽古再開と思いきや、佐々木、駆け込んで登場。

佐々木 佐久間さん！

佐久間 どうだった。

武田 ……。(やれやれの体)

佐々木 駄目です。相馬、永倉、指貫、三名とも川音ゼミからはまったく迎れません。  
なにせ死んでるんで…。

佐久間 その他の川音教授の教え子は洗い出しは済んだのか。

佐々木 それがその…なにせ数が多いもんで…。

佐久間 なんだオマエ、手ぶらで帰ってきたのか。

佐々木 そう云われると思っただんで、ちよっとそのバイトを…

佐久間 バイト？

麻矢、登場。

麻矢 ヤッホー。佐久間さん。

佐々木 すいません。

佐久間 麻矢ちゃん。

麻矢 兄貴に頼まれて、あたしが調べてあげました。

佐久間 調べたって…？

麻矢 川音教授の教え子のデータ。

佐久間 どうやって。

佐々木 ちよっとハッカーのマネゴトというか、そういう…

麻矢 へへ。ちよっとあちこちの企業データベースとか渡り歩いてきましたあ。

佐久間 そりやまるつきりハッカーそのものだぞ、おい。

佐々木 こいつ、そういうことだけはどうも天分があるみたいで…

佐久間 知らなかったなあ…そっぴや麻矢ちゃん、工学部だったっけ。

麻矢 「情報」工学でえす。

佐々木 それで、結論から云うとですね、川音教授の感化を受けたと思われる大物が  
 けっこついるんですよ…。たとえばですね…。

真佐代（声） 寄ってってください。ね。お茶淹れますから。ちょっとだけでも…ね。  
 高林（声） あの、どうぞお構いなく…。

真佐代、碧、高林、久保、ドヤドヤ登場

武田 なんだなんだ。

碧 【テレビの人。】

武田 テレビ？ なにがテレビ…あ…あの、あれえ。高林ルミ？

高林 どうも。

武田 はは。どうもどうも。…どういことよ！

真佐代 それがね、例の右近ちゃんの宗教…

武田 ああ、エミールなんか。

真佐代 そこに行ってみたのよ、碧ちゃんと。そしたらバツタリ。

武田 バツタリって、あ、取材かなんかで？

高林 ええ、まあ…。ね、久保くん。

久保 あ、関東テレビの久保です。

武田 どうも、なんかうちの関係者がお世話になったみたいで。…で、どうだったの、

高山。

碧 【最悪。】

真佐代 そうね、ちょっとあれは…危険な感じする。

武田 やっぱインチキ宗教か。

真佐代 ちよつと怖かった、かな。

久保 いや怖かったですよ。マジで。

武田 あ、そう。そうなんだあ。

真佐代 あれ、なんか洗脳っぽい感じするわね。

久保 そう、洗脳。催眠術ですよ。みんな云いなりになっちゃって。僕たちもね、最後、  
 どうなっちゃったか解<sup>わか</sup>らないんすよ。

武田 え、どういうこと？

真佐代 それがねえ、隠れ場所が見つかったちゃって…

久保 教祖サマみたいな女の人が、こつ。

武田 こつ…手がざし？

久保 それつきり意識不明。

武田 え。

真佐代 そうなの。

久保 全員。

碧 【気がついたらビルの外に四人で立ってた。】

武田 はあ？…それ、財布とか取られてなかったの？

久保 あ、そういう発想しなかったな…。（体を探り始める）

真佐代 インチキっていつか、政治家の人とかが出入りしてるらしいから、知名度はあ  
 るのかしら。

武田 政治家。

高林 政治家じゃありませんよ、官僚。

真佐代 そうなんだ。

高林 遠藤茂は、外務省の役人です。話に出てたのは資源庁の加賀谷、これは政務次官で事実上のトップ。それから日銀の柘植、これは財界のボス…。

真佐代 うわ、すごい記憶力…。

佐久間 ……遠藤…加賀谷…柘植…。(じつと高林をみつめている)

高林 ……なにか？

佐久間 ああ、失礼。佐久間といいます。ええと…(警察手帳がない)

武田 謹慎中のデカです。

佐久間 おい、余計なことを…。

久保 ない！ やっぱりないよ！

武田 わあ、吃驚<sup>びっくり</sup>した。

久保 高林さん、テープが…あの、録音テープが無くなってます！

高林 やられたわね…。

久保 すいません、あれ、こないだの松川のインタビューも入ってたんスよね…。

高林 ……カメラはあるわね。どうしてテープだけ…。

佐々木 マツカワって…佐久間さん。

佐久間 ……。

佐々木 高林さん、その松川って、もしかしてマツカワ・プランニングの社長のことじゃ…。

高林 ……そうです。松川源司氏です。

佐久間 ……高林さん、なぜ松川を。もしよかったら…。

高林 それは、取材上の秘密です。

佐々木 こっちは警察なんですよ！

佐久間 佐々木。

佐々木 ……。

佐久間 こちらから云いましょう。我々はずっと松川を追っている。現在彼が違法行為をしているなら、なんとかしてそれを立証したい。そのために指貫という、松川が使っている男を捜しているんです。

高林 それで…さっきの役人たちがなにか関係が？

佐久間 ……指貫という男は川音慶一郎という大学教授の教え子だったという未確認情報が入ってきています。川音教授は生前、かなり多くの大学で教えていた。その教え子たちのリストがこれです。高林さん、さっきあなたがおっしゃった三人の男の名前…すべてこのリストに載っています。

高林 川音…聞いたことあるわ。奇人と呼ばれた異端の経済・社会学者ですね。日本の経済的独立と精神的独立を訴えた…確か「日本創世論」…。

久保 「創世論」と…エミール創世会…。これって偶然ですかね…？

佐久間 あなた、どうしてその宗教団体に？

高林 久保くん、ノート。

久保 いいんですか？

高林、久保のノートを佐久間に。

高林 今、私たちが追っている、人たちのリストです。松川はその動きに何らかの形で関わっていると思います。マークがついているのが、その中でエミール創世会に出入りしている人たちです。

佐々木 (自分の資料とノートを見比べている) 佐久間さん、これ…

佐久間 ああ。…高林さん、このマークがついた人物は……全員が川音教授の教え子です。

久保 でも…出身大学はバラバラで…

佐久間 川音教授は大学を転々としている。体制に与しない強烈な個性。頑固一徹。サムライと呼ばれていたそうだよ。高林さん、これは…

高林 そうですね。…これは、なにかが…

佐々木 繋がっている？

佐久間 彼らは、エミール創世会で何を？

高林 わかりません。ただ、たった一言だけ…フラワーパークがどうか…

佐々木 フラワーパーク？ なんてしょうかね？

佐久間 わからん…。とにかく今はエミール創世会だ。当たるところはそこしかない。

佐々木、動くぞ。

佐々木 佐久間さん、謹慎中なんですよ！

佐久間 まあ、それはどうでもいいんだが…

佐々木 いいんですか！ いいんですよねえ…

佐久間 エミールにはまずおまえが行ってこい。俺は他にやる事がひとつある。行くぞ、佐々木。

佐々木 はい！ 麻矢、行くぞ！

麻矢 はいよつ。武田さんバイバイ！

佐久間、佐々木、麻矢、退場

高林 なんだか面白くなってきたじゃない。行くわよ、久保くん。

久保 はい！

高林、久保退場。

真佐代 (碧になにやら耳打ち) だから、…ねっ。

碧 【うん、わかった。】

真佐代、碧退場。

武田 始まったよ、暴走が…。待てよ、俺の芝居どうなんだよ！ (我に還るとひとり)…

あ、あれ？…おい！…ちよっとお！

武田、退場。



## シーン12 密会

公園。

ホームレス、登場。

佐久間、登場。豆乳つき。

永倉、登場。

永倉 佐久間さん。

佐久間 やあ、永倉さん。豆乳どうです。

永倉 (上品に首を振って断る) よくわかりでしたね。

佐久間 いやあ、当てずっぽうです。内閣情報室に電話して、樋口加代さんにお話があるんですがと云っただけです。わざわざご足労いただいて恐縮です。

永倉 佐久間さん、謹慎中ではありませんの？

佐久間 はは、よく御存知で。まあ、この年で謹慎だの独身だのと騒がしいことを云ってるのは署でも私くらいのもんです。

永倉 …(ただ微笑む)

佐久間 実は教えていただきたいことが出来ましてね。永倉さん、フラワーパークってなんだかご存知ですか。もしご存知ならぜひ教えていただきたいんですがね。

永倉 …佐久間さん。さすがですね。私、見直しました。もうそこまで辿り着いてしまったんですね。

佐久間 いやあ、ほんの偶然です。

永倉 あなたが興味がないとおっしゃった大きな動き…正体は財閥再編です。

佐久間 …。

永倉 日本の主要な企業を幾つかの財閥にまとめ上げる。そしてもうひとつは、自給自足体制の確立です。松川はそのために裏の人脈をフルに使って関係者を取り持っています。

佐久間 永倉さん。

永倉 荒唐無稽と申し上げたでしょう？ でも本当のことです。

佐久間 どうして私にそこまで？

永倉 あなたに賭けてみたくなりました。あなたなら松川を出し抜けるかもしれませぬもの。

佐久間 私、捨て石ですか？

永倉 (笑う) あなたはイメージ通りの方です、本当に。(紙片を取り出して渡す)…

これがフラワーパークのある場所。F.P.コープというのが所有企業。もちろん本当の持ち主は松川。テーマパーク建設のための土地と称していますが、ただの野原です。表面上はね…。

佐久間 …ありがたく、いただきます。

永倉 また、お会いできるといいですね。

佐久間 永倉さん、その財閥再編と自給自足…。目的はなんですか？

永倉 それは宿題にしましょう。

佐久間 ああ、あとひとつだけ。

永倉 はい。

佐久間 死人になるってのは、どんな感じですか？

永倉 ……（微笑む）

永倉、退場。

佐久間 ……宿題だそうですね。

高林、久保、登場。

高林 直接松川さんに聞きますかね。

佐久間 困った人だ。尾<sup>つ</sup>けてきたんですか？

高林 あら、ほんの偶然です。

佐久間 やれやれ…。

高林 財閥再編と自給自足……だいたい見当つきますけどね。

佐久間 ええ、私も「日本創世論」読んだんでね。しかし…

高林 確かに荒唐無稽……いいじゃないですか。それを確かめましょうよ。

佐久間 危ない目に遭つかもしれませんよ。いいんですか？

高林 お互い仕事ですからね。

佐久間 すぐ出発します。捜査の邪魔はしないように……あ。謹慎中か…。

佐久間、退場。

久保 あの、どこか、行くんですか？

高林 フラワーパーク。

久保 えっ！

高林 行くわよ！

高林、久保、退場。

佐久間、戻ってくる。

佐久間 （ホームレスのひとりに）これ、よかつたら飲んで。

ホームレス ……。（ぼつ然と見上げている）

佐久間 うまいよ。

佐久間、退場。

## シーン13 エミール(2)

エミール創世会。

高山が道場を掃除しつつ登場。  
佐々木、碧、真佐代、登場。

真佐代 右近ちゃん。

高山 あ…。

真佐代 しいっ。また来ちゃった。教祖さまは？

高山 今、休憩時間で商店街に買い物に…。

真佐代 あら。どうする佐々木。

佐々木 どうする佐々木って…なんであなたいるんです、ええと、多田さんでしたっけ？

真佐代 多田真佐代です。

佐々木 それから五代…さん。

碧 【五代碧でえす。】

高山 高山右近です。

佐々木 いや、別に自己紹介コーナーやってるわけじゃないんですから。

碧 【バカ】

高山 【バカとは何だ！】

碧 【そのカツコをまずヤメロ】

佐々木 あの、ですね、これは警察の仕事なんですから。できれば民間人の方ですね…。

綵舟齋、通りすぎるように登場。

綵舟齋 町内会が済んだと思ったらこんどは警察？

高山 あ、綵舟齋さま。

真佐代 …簡単に出るときはずいぶん簡単に出るわね。

綵舟齋 またあなたがたなの？ 今日は何にかしら。

佐々木 警視庁の佐々木と云います。ヒオウギソウシューサイさんですか。

綵舟齋 さんづけは止めて。凄く間抜けな響き。

佐々木 えー、では、教祖さん。

綵舟齋 あなた、からかっているの？

佐々木 本官は真面目です。

綵舟齋 で、御用は何にかしら？

佐々木 ある犯罪事件に関連して、こちらの団体に入入りしている政財界の要人グルー

プがどのような内容の相談事もしくは会合を…

綵舟齋 佐々木さんだったかしら？

佐々木 はい。

綵舟齋 そついうことは相談者のプライバシーですから、申し上げるわけに参りません。

佐々木 …。

綵舟齋 …もつとはつきりお聞きになったらいいのよ。

佐々木 なにをです。

綵舟齋 政治家をたぶらかしていったいなにをたくらんてるんだ、って。

佐々木 なにをたくらんてるんです？

綵舟齋 あなたホントに警察官？…まあいいわ。教えて上げます。

佐々木 そう云わずにそこをなんとか…。えっ？

綵舟齋 どうせあの人たちはもうここへ来る必要がなくなったんですから。

佐々木 どういうことですか。

綵舟齋 もう秘密にしておくこともないってこと。なぜならすべてがもうすぐ日本中に…いいえ、全世界に知れわたるから。私ももうお役ご免でわけ。

佐々木 …。

綵舟齋 あの人たちはね、日本の企業をいくつかの財閥にまとめ上げる仕事をしてたの。

佐々木 財閥？ なるためにです。

綵舟齋 外国に売りやすくなるため。そしてもうひとつは、輸入に頼らずに自給自足の体制をつくるためのいろんな準備。

佐々木 じきゅう…じそく？ なんの話なんです！

綵舟齋 日本はもうすぐ国を閉ざすんです。一切の国交を断絶し、この島の中だけで、生き残ることだけを考えて生きていく。この国はそういう国になるんです。

真佐代 それってつまり…。

高山 鎖国…？

綵舟齋 もう日本は、なにも買わない、そしてなにも売らない。わけもわからず他人と歩調を合わせることはもうしない。

佐々木 そんなことをして一体なんになるんです！

綵舟齋 佐々木さん。あなた家出したことありますか？

佐々木 家出？

綵舟齋 ひとりになって、いろんなことを考え直したいって思ったことは？

佐々木 そりゃ…ありますよ。

綵舟齋 同じですよ。

佐々木 はあ？

綵舟齋 それと同じなんです。

佐々木 なに云ってるんです…。

綵舟齋、佐々木をじつと凝視している。  
そして目を閉じる。

綵舟齋 …高校生の時ですね…。あなたは内気な子供で、うまく周囲の人たちとの距離を計れなかった。あなたは明るいフリをして周囲に合わせた。でも自分がわからなくなつた…。自分がなにをしたいのか、なにをしたくないのか、それすらわからない、もう面倒くさい、もういやだ、ひとりになりたい、自分を取り戻したい…そしてあなたは家を出た…。

佐々木 …読心術ですか？ 驚きませんね。前もって調べてあるんでしょう？

綵舟齋 (目をあげ、うつすら笑う) ええ、まあそうですね。あなたの云つており。

佐々木 あんたのやつってることは詐欺じゃないか！ そうやって信じ込ませて、政治家を誑かしてるんでしょうが！

綵舟齋 いいえ、それは違う。私はただの連絡係よ。小さな歯車のひとつ。

佐々木 だって…おかしいでしょう！ そんな…子供の家出と一緒にいるんですか！ そんなことで…日本全部が…世界に背を向けてしまうなんて！ そんなバカげたことが！

綵舟齋 なぜ？  
佐々木 なぜって…。

綵舟齋 いけない理由、仰れるかしら？

佐々木 ……そ、そりゃ…いろいろいけないでしょう…。

綵舟齋 これはね、正しいとか正しくないとかじゃないの。判るかしら佐々木さん、あなたに…。

佐々木 ……。

佐々木、思考が散逸してぼう然の体。

真佐代 ねえ…ヨッシー。

綵舟齋 その呼び方はやめて。

真佐代 じゃあ、水谷さん。

綵舟齋 あなたは相変わらずね、えっと…

真佐代 結婚したのよ、今は多田。

綵舟齋 そう、おめでとう。

真佐代 ありがとう。でね、それって云うのは、あなたが自分で考えたことじゃないんでしょ？

綵舟齋 ……。

真佐代 あなた今、歯車って云ったわよね。誰がいるんでしょ？ 一番後ろに。歯車を回してる人が…あの、なんて云うの…

碧 【黒幕。】

高山 (見て訳す) 黒幕。

真佐代 そう、それ。全部を計画して、種を蒔いた人が…。

綵舟齋 ……。

佐々木 いるんですかそんな奴が！

綵舟齋 ……(黙って頷く)

真佐代 教えてもらえない？

綵舟齋 ……。

佐々木 誰なんです！

綵舟齋 それは…それは私にもわかりません。

佐々木 そんな筈ないでしょう！

綵舟齋 わからないんです、本当に。でも…。

佐々木 でも？

綵舟齋 はっきりしていることがひとつだけ…。

佐々木 ……。

綵舟齋 もう誰にも、…止められない。

全員が、黙りこくる。

相馬、珠子、登場。

相馬 綵舟齋さま。そろそろ。

綵舟齋 ……ええ。

珠子 お時間です。

綵舟齋 そつね…。

相馬、珠子に目配せする。

珠子 では、いざ、参りましょう。迷える魂のもとへ。いざ。

相馬 いざ。

珠子 いざ。

相馬、珠子、高山を見る。

高山、手を振って遠慮する。

相馬、珠子に続いて、綵舟齋、退場していく。

佐々木 あ、ちよつと！

真佐代 ねえ、ヨッシー！ 芳美ったら！

綵舟齋 …。

真佐代 あなただって…あなただって操られてるんじゃないの！？ ホントはあなた  
だって…！

綵舟齋 さよなら…。

佐々木 おい、待て！

綵舟齋、珠子、相馬、退場。

残される佐々木、真佐代、碧、高山。

真佐代 …。

佐々木 なんだか…なにをどう考えていいんだか…。

高山 えらい話聞かされちゃったなあ…。

真佐代 目が覚めたみたいね、右近ちゃん。

高山 新しい時代が来ちゃうんですかね…。

真佐代 右近ちゃんの時代だといいわね…。

碧、仕切りに手話を繰り返している。

真佐代 …。

佐々木 なんです、彼女なんて言ってるんです？

碧、三人に向かって、ゆっくり手話を始める。

真佐代、同時にそれを音にしていく。

碧 【そんなことをしちゃ駄目。】

真佐代 そんなことを…しちゃ駄目…。

佐々木 どういうことですか？

碧 【閉じこもったらお終しまい。】

真佐代 閉じこもったら…お終しまい…。

佐々木 碧さん…。

碧 【私にはわかる。あの人の言ったことは、悪い。】

真佐代 私には…わかる…。あの人の…言ったことは…悪い？…いけないこと？

碧 (頷いて)【閉じこもったら、背を向けてしまったら、全部が駄目になっていく。】

真佐代 閉じこもったら…背を向けてしまったら…全部が…駄目になっていく…。

碧 【止めなきゃ駄目。絶対。止めなきゃいけない。止めなきゃいけない。】

真佐代 止めなきゃ…駄目…。絶対…。止めなきゃいけない。止めて…止めて…止め  
て…止めて…碧ちゃん…。

高山 碧！

高山、泣きそうになりながら「止めて」を繰り返す碧の手をそっと抑<sup>おさ</sup>える。

佐々木 …。

真佐代 佐々木さん。

佐々木 そうだよ…。止めるんだ…。碧さんの言う通りだ！ 鎖国なんて…。おかしいんだよアイツら！ 狂ってるよ！

真佐代 佐々木さん…。

佐々木 潰<sup>つぶ</sup>すんですよ、真佐代さん！ だって、だって僕の家出だって三日しかもたなかつたんですよ！ 正義は我にありだ！

高山 だけど、どうやって…？

佐々木 とにかく、黒幕を捜すんだ。対決するんですよ！

佐々木、飛び出していく。

他の人々、追いかけて退場。

## シーン14 語り(2)

語り部(きのと)、子供たちを連れて登場。

きのと ……そうしてすべては予定通りに進んでいた。ちなみにこれが、わしの先祖が探索者サクマから手渡された「トーニユー」というものじゃ。

子供たち、珍しそうに豆乳の漬れたパックを手に取る。

きのと (よもやがそれを囓<sup>かじ</sup>っているのを見て) 決してうまくはない。わしも子供の頃ちよっぴり囓かじってみた。まあ、昔の人は味覚が変わっておったんじゃろう。…ともあれ、探索者たちの一行は、フラワーパークへと乗り込んだ。すなわち、ここじゃ。この場所で、サクマたちは、すべてを知ることになった…。

子供たち、キョロキョロと見回す。

きのと いやいよ大詰めじゃな。わしゃちよっと疲れたわい。少し休憩じゃ。その木陰で寝るから、みんなそのへんで遊んでおれ。うたか。

うたか あい。

きのと うたかの影がうたかの背丈<sup>せたけ</sup>の倍になったら起こしてくれ。続きを聞かせてやるわい。今日は日暮れに客がひとりくるでな。…あまり遠くにいくでないぞ…。

きのと、退場。

子供たち、チョロチョロしているが、やがて姿を消す。



## シーン15 フラワーパーク

フラワーパーク、地下設備。  
 広大な倉庫である。  
 佐久間、武田、麻矢、高林、久保、登場

武田 へええ。だだっ広い倉庫があるんだなこりゃ。これ、キャパ千ぐらいとれるぜ。  
 佐久間 ……。

武田 あら、不機嫌デカ。

佐久間 なんておまえがついてくんだよ。民間人だろうが。

武田 謹慎中のデカだって民間人みたいなもんだ。

佐久間 全然違う。

武田 とにかくな、おまえに貼り付いてないところ飛んでくかわかんねえからな。どうあっても芝居に出て貰うぞ。

佐久間 高山くんが帰ってくれば問題解決だろうが。

武田 だからそっちは碧たちが行ってるよ。二面作戦よ。それに、おまえとの貸し借りはまた別問題。

佐久間 馬鹿野郎。

武田 お互い様だ。

佐久間 しかも麻矢ちゃんまで…

麻矢 だって佐久間さん、ヨシ行くぞおって…

佐久間 あれは佐々木に云ったんだよ！

麻矢 あたしも佐々木なんですけど。

佐久間 ……。なにもここまでついてこなくてもいいんだよ！

麻矢 だってえ、面白そうだし…

佐久間 せめて佐々木のほうへ行けばよかったじゃないか。

麻矢 兄貴がそれだけは勘弁してくれって泣いて頼むから。まあ、いいじゃないですか。あのホラ、乗りかかった海苔弁？

武田 なに？ 海苔かかった海苔弁？

麻矢 それオヤジギャグ。

武田 嘘…。

高林と久保は少し離れてあたりを見回している。

高林 不思議ね…。

久保 なにがスか？

高林 だって、こんな倉庫、なにに使うの？

久保 なになにって、そりゃあ…うーん。そう云えば。

麻矢、コンピュータの端末を見つける。

麻矢 わお！ すっごい。(キーボードをカチャカチャ叩いて操作する)

武田 麻矢ちゃん、わかるのそれ。

麻矢 うん。

武田 凄いなえ。へえー。

麻矢 これ、集中制御ね。倉庫の扉とか、全部ここからコントロールできるみたい。  
武田 こりゃあ凄いや。へえー。

その様子を見ながら、高林が続ける。

高林 着工したって云つても、上の地面はただの野っ原ほらよ。真っ先にこの倉庫を作ったわけよね。しかもコンピュータ制御まで導入して。それでいてなにも置いてない。一体ここになにを入れようっての？

佐久間 （そばに来ている）たぶん…

高林 たぶん？

佐久間 指貫が世界中で買い漁っているものが、ここに入るんだ。

久保 なんですか、それ。

佐久間 それはわからん。

久保 フラワーパークなわけだから…花の種とか！…んなわけないっスよね。

唐突に拍手が聞こえる。

松川 その通り。ご名答。

松川と指貫、登場。

佐久間 松川…

高林 松川社長、どうしてここに？

松川 また会ったな、お嬢さん。よくこれだけ短期間にここまで辿り着いたもんだよ。…  
久しぶりだな佐久間さんよ。

佐久間 ああ。

松川 あんた、謹慎中じゃねえのかい。それともアルバイトにお嬢さんのボディガードでも買って出たか。

佐久間 なんでもよく知ってるじゃないか。

松川 知ってるさ。暴走刑事の突進ぶりはな。

高林 あの隣の男…

佐久間 いや…違う。指貫じゃない。

松川 どうした。質問はそれだけかい。

佐久間 ご名答ってのはどういうことだ。花屋に職業換えでもするのか。

松川 当たってんのは、種の方だけさ。

佐久間 種？

松川 正確には苗だ。寒さに強い穀物。野菜。豆類。ありとあらゆる種類の苗だよ。

佐久間 どういうことだ！

松川 あんたも鈍いねえ。この地下倉庫見て一目で見当つかねえとは…。当ててみなお嬢さん！ こいつはなんに見える！

高林 …シエルターですか。

松川 またまたご名答。警察対マスコミじゃマスコミに軍配だな。

高林 こんなシエルター作ってどうしようって云うんです！

松川 決まってるじゃないか。戦争になるんだよ。

久保 なに云ってんだ…あいつ。

松川 ピンと来ないかね。今さら戦争なんて。時代遅れかね。…甘いなあ。なけりや作る。こつちから仕掛けられないなら、向こつちから仕掛けるように仕向ける。それが商売つてもんだぜ。え？

佐久間 あんた正気なのか！

松川 俺を甘く見るなよ。こいつはね、政府、官僚、企業全部を巻き込んだ、でっかい

仕事なんだ。

高林 …おかしい。

佐久間 ああ。なんか変だ…。おい！ そのあんた！ あんた指貫浩二か！

指貫 …。

松川 ああ、そうだよ。

佐久間 松川さん、あんた騙されてるみたいだなあ。その男は指貫じゃないぞ！

松川 なに云ってんだ、あのバカ。往生際が悪いぜ、佐久間さんよ！

武田がしきりに麻矢に目配せをしている。

麻矢、意味がわかってわずかに頷く。

松川たちの視線が、逸れる。

武田 今だ…。

麻矢 …！

麻矢、端末に飛びついて素早くキーを打つ。

松川 指貫！

指貫、銃を抜いて麻矢の方へ向ける。

武田 早く！

武田が麻矢をかばう。

佐久間が駆け寄る。

銃声。麻矢を床に引き下ろす佐久間。

別の銃声。

指貫の持つ銃が飛ぶ。

うづくまる指貫。

銃を握った永倉、登場。

永倉 松川源司！ 手を上げなさい！

佐久間 永倉さん！

落ちた銃を拾おうと駆け寄る松川。

再び永倉から銃声。

腕を掠める銃弾にどつと倒れ込む松川。

物陰に逃げ込む高林。

それをかばう久保。

床から必死に手を伸ばしてキーボードを打つ麻矢。

指貫の銃を拾いに動く佐久間。

照明オフのキー入力を終えて床に伏せる麻矢。

巨大なモニターが停止する音とともに、倉庫の電気が消える。

モニターの明かりだけがボンヤリと光っている。

そして静寂。

誰かの息づかいのみがかすかに響く。

足音がする。

非常灯のような色合いの電気が灯り、倉庫内が薄明るくなる。

倒れている松川。

指貫の銃を奪っている佐久間。

床に突っ伏している麻矢。

高林をかばっている久保。

ぼう然と床に座り込んでいる永倉。

そして高みに、

ナカムラとスズキが立っている。

ナカムラ そう、外務省がやっていたのは、戦争の準備なんかではない。大規模な企業売却の交渉です。

佐久間 あんた…指貫！

ナカムラ 松川さん、あなた本気で信じていたんですか。日本がもう一度領土拡大を目指す…。バカな話だ。まあもつとも、その馬鹿な話を信じてもらわなければいけなかったこつちの事情もあるわけですがね。

佐久間 あんたが指貫だな！

ナカムラ 松川氏のおっしゃったことは、真実も含んでいます。いや、大部分は真実。ただ目的だけが、全体の目的とは違っていた。この計画ではすべてがそうなんです。外務省にしても、企業売却は経済不均衡解消の妙薬であり、世界に貢献するチャンスだと信じて理想に燃えていますよ。

松川 誰なんだ、てめえ！

ナカムラ 初めまして。日の出経営研究所の、指貫です。

スズキ 同じく、永倉千代と申します。

佐久間 あ、あんたたちは…いつたい！

スズキ、永倉のそばに歩み寄る。

永倉 あなたが…わたし…？

スズキ あなたに伝言があります。松川を追う必要はありません。もともとあなたの役目は政府内での情報漏れを防ぐこと。あなたはそこから逸脱してしまっただ。私の後催眠が未熟だったせいです。申し訳なく思っています。とにかく、あなたはこれ以上永倉千代である必要はありません。あなたを解放します。計画はすべて終了しました。これがあなたへの伝言です。

永倉 …誰から…。

スズキ （永倉のそばに寄る）…女のサムライ。

永倉 …。

永倉の顔から表情が消える。

ナカムラ （指貫に）さあ、もういいですよ。この倉庫は…閉じます。食糧保存庫は当面の間、誰にも場所を知られてはならない。これは厳しく守らなければならぬ。

指貫 …あんた…誰だ…。

ナカムラ あなたはここを出てすぐに、このことは忘れる。そしてもう、あなたは、指貫浩二じゃない。…これがあなたへの伝言です。…女のサムライからのね。

指貫 …。

ナカムラ 行きましょう。

指貫と永倉、ゆっくりと歩き始める。

ナカムラ 計画者と実行者を完璧に分離して事を進めるには、どうしても必要なのです。実行者を制御し導くりモーターコントローラがね。

久保 洗脳…催眠術か？

高林 綵舟齋と同じ…あなたたちは仲間ね…。

ナカムラ いいえ。綵舟齋に後催眠を教えたのは、われわれです。彼女もまた、駒なのです。駒のそばにはリモコンがいる。

武田 じゃあ…真佐代たちは…

ナカムラ ここはもう閉めます。…幸運を祈りますよ。

松川 (痛みを堪えて起きあがろうとする)…てめえ、聞いてりゃ好き勝手にほざきやがって…おれが…このおれが駒だと…ふざけるなッ！

ナカムラ さようならみなさん。

ナカムラ、スズキ、指貫と永倉のあとを追って退場。

松川 待ちやがれッ！

巨大なドアが閉まる音が響く。

松川 くそッ！

佐久間 あんまり動くと出血がひどくなるぞ。

松川 ほっとけクソ刑事！

佐久間 おれもそうしたいよ。

高林 やっぱりそうよ…あいつらの目的は、川音教授の遺志を継ぐこと…。戦争でも、貢献でもない…。

佐久間 とにかく、今はなんとかここから出ることを考えるんだ。さもなきゃ五人揃って仲良くミイラだぞ。

武田 だいじょうぶだよほおおん。

佐久間 軽いなあオマエ。

武田 さっき聞いてなかった？ 麻矢ちゃんは天才マイコン少女なのだ！

佐久間 マイコン？

高林 死語ね。

久保 ホントにゲーム屋の店長？

佐久間 おまえいつの時代の人間だ。

武田 うるさい！ とにかく、このあらゆる扉をこのワープロで…

高林 違う違う。

佐久間 違う。

久保 ぜんぜん違う。

松川 まるで違う。

武田 ああうるさいッ。とにかく開閉自由なのだ。安心したまえ！

麻矢 でもさ…ちよっと…

武田 ん？ どつたの？

麻矢 まずいのよね…。

武田 なにが？

麻矢 モニター、ピストルの弾で壊れちゃってるみたいで…

武田 画面が見えないってこと？ 平気平気。だってホラ、ブライアントタッチってやつで、ホラ…

麻矢 ブラインドタッチっていうのはキーボードを見ないことですよ。画面は見てるのよ。

武田 あ、そうなの？

麻矢 はじめて見るシステムだし、試行錯誤しないと…それにこれ、最初から電源が入ってたでしょ。

武田 うん。

麻矢 だからリセットできないの。リセットするとたぶんパスワード入るって云われると思う。

武田 しなきゃいいんじゃない？

麻矢 うん、したくないんだけど、たぶん…ドアのオープンに失敗したら、リセットされると思う。すぐセキュリティ厳しいから。

武田 パスワードは…わかんないよね…。あの、誕生日とかよくあるけど…

麻矢 十二桁よ。1年かかって全部試せないわよ。

武田 するってえと…メクラうちでキーボード叩いて、もし失敗したら…

麻矢 たぶん、ここから出られないわ。

一同、顔を見合わせる。

全員で、他の出口を探す。ない。

麻矢に期待がかかる。麻矢、何度かキーボードに向かうが、

麻矢 やっぱだめだあ…。

佐久間 そんなこと云ったって、やらなきゃしょうがないんだから。

麻矢 だってもし失敗したら…

佐久間 だいじょうぶだよ。

麻矢 だってほんの二三分触っただけなのよ。画面見えなきゃどうしようもないわよ。

武田 だいじょうぶだよ、麻矢ちゃんの記憶力なら。

麻矢 キーひとつ間違えただけでも取り返しがつかないのよ。そんなの責任持てないよ！ 全然だいじょうぶじゃないわよ！

佐久間 違うよ。間違ったっていいんだ。

麻矢 だって…

佐久間 取り返しがつかなくなたっていいんだ。ちよつとでも確率があるなら試してみたんだよ。それだけだ。それが試せるのは麻矢ちゃんだけなんだから。…そうだろう、みんな。

武田 そうだよ、謹慎デカの云う通り。

高林 麻矢ちゃんに任せるわよ。文句なんか云わないわ。ね、久保くん。

久保 いいつつ、ガツンとやっちゃってください。

松川 まあなんだ…

佐久間 ほらな、みんな同じだ。

松川 俺にも云わせるよ！ このクソ刑事！

佐久間 …… 済まん。

松川 まあ、なんだ、気楽にやれや。ちっちゃいお嬢ちゃん。

佐久間 大したこと云わねえ癖に…。

松川 なんだとこのバカ刑事。おれはプレッシャーをかけないようにわざと軽薄にだなあ…。

佐久間 わかったわかった。ほら、麻矢ちゃん、チャチャツとやっちゃいな。

麻矢 …… わかった。

麻矢、キーボードに向かう。

集中する。

呼吸を整える。

キーボードに指を置く。

高林 指を見ちゃ駄目。画面を見るの。…いつもと同じ調子で。慎重に打とうとしないで。リズムに乗って。

麻矢 うん…。

松川 …… 笑顔だ、お嬢ちゃん。好きなんだろ。そいつが。

麻矢 …… うん。

麻矢の顔が上がる。

中空を見つめる。

指が動き出し、素早いキータイプが始まる。

全員が、息を飲んでそれを見つめている。

やがて、

麻矢 …… これで…いいはず…。最後のエンターキーよ。押していい？ 誰か押したい人。

松川 あ、おれ押そうかな…。

佐久間 いいから麻矢ちゃん押して。

松川 なんだよ…。

麻矢 じゃあ、押すよ。

麻矢、最後の実行キーを押す。

麻矢 …… これで、たぶん一分くらいで、メインドームが開くか、または…

武田 わかった、云わないで。心臓ドキドキしてきた…。

久保 高林さん。

高林 ん？

久保 さっき云ってた、あいつらの目的って、なんなんスか？

高林 荒唐無稽な話よ。外国に企業を売って、食糧をため込む、つまり…

久保 つまり…なんですか？

高林 ……ここから出られたら…教えて上げる。うつん、ここから出られたら、きつとすぐにわかるはず…。

\*

松川 まあ佐久間さんよ。あんたとも長い付き合いだよなあ。

佐久間 ああ。

松川 しつつこいよなあ、あんたも。わかってんだぜえ。性格だな。

佐久間 なにかだ。

松川 最初の一敗が忘れられないんだろ。

佐久間 ……まあな。せめて一勝一敗にしたい。

松川 チャンスやるうか。…シリトリしようぜ。好きなものシリトリ。

佐久間 ……。

松川 いいじゃねえか、もしかしたらこのままずっと「こごご」一緒ってことになるかも  
知れねえんだしよ。

佐久間 ……お先にどうぞ。

松川 ありがとさん。ええと…佃煮。

佐久間 ……。

松川 好物。「に」だよ。…好きなものオンリーだぞ！ 自分に嘘つくなよ！

佐久間 ……人間。

松川 ……。(呆れる)かっこつけやがって…このクソバカ刑事！…いいよ、一勝一敗だ！  
佐久間 ……どうも。

松川 試合に負けて勝負に勝ちやがったな。

いきなり、アタマの上で重々しい金属音がする。

全員が、上を見上げる。

ゆっくりと天井が開いていく(かのような明かりが射す、という事)

全員、言葉もなく空を見上げている。

暗転。



## シーン16 国家解散

モニターが光り出す。  
そのひとつひとつに、語り部以外のホームレスたち（＝子供たち）が、あるいは座り、あるいはモニターにまわりついている。

ホームレス 本日午後10時、突如日本政府が内外に向けて、鎖国を宣言しました。このニュースは瞬時に全世界を駆け巡り…

\*  
ホームレス 日本政府は今日、全国民に向けて、あらゆる輸出、輸入の禁止、海外渡航の禁止、衣食住に直接関わる産業以外の生産行為を、期限付きで禁止…

\*  
ホームレス 海外移籍を希望するあらゆる企業は、政府窓口機関に申し出て下さい。移転先の斡旋、移転費用はすべて政府から支出されます…繰り返します。海外移籍を希望されるあらゆる企業は…

\*  
ホームレス つまり日本は農業国に戻るのです。文明の進歩が絶対であるとする価値観から、日本は永遠に別れを告げます。あとは国民ひとりひとりが選択してください…

\*  
佐久間と麻矢が、闇の向こうを透かしてみるように、ただ、流れる言葉を聞いている。

\*  
ホームレス 今夕、IMF脱退をもって、日本国はあらゆる国際条約、国際基金、国際機構からすべて脱退を完了しました。これについて各国首脳は…

\*  
ホームレス 臨時政府は、全国のすべてのコンクリートをはがし、処分し、国土の表面を耕作可能な土に還元するため、土地所有権の一時的な凍結を発表…

\*  
ホームレス 本日をもって、日本国を解散いたします。長い間ありがとうございました…。  
暗闇がすべてを呑み込んでゆく。

暗転。

## シーン17 その後

久保、高林。

高林 久保くん。ありがとうね。

久保 そんな、僕のほうこそ。

高林 ブラジルだっけ？

久保 オヤジの会社の移転先なんで、そっち行くことになると思います。

高林 あたしはテレビ局にくっついていくわ。まだやりたいことあるから。…いつか一緒に仕事したいね。

久保 はい。

高林 ほんとはね、日本に残ろうかって思ったんだ。残って、この国がどうなるのか、内側から見てやるうかって思った。でも…

久保 でも？

高林 やっぱ閉じこもるのはいや。いろんなものが見たいし、違う人とも会いたいから。

久保 そうっすね。…それに、農業国っすもんね。

高林 それもいいけどね。

久保 だって、高林さん、朝弱いっしょ。

高林 ……それ、秘密にしたのに。

久保 久保ノートにはなんでも書いてあるんす。

高林 元気で。

久保 元気で。

久保、高林、別れて退場

武田、佐久間。

武田 それで結局松川パクったのかよ？

佐久間 証拠不十分。それにそれどころの騒ぎじゃないだろ。バカバカしい。

武田 で、おまえどうすんだ？

佐久間 行政関係は大幅人員整理だ。謹慎デカの居場所はねえよ。

武田 クビか。よし！俺と一緒に、この日本に残って芝居やるっ。演劇の灯をいじましく守っていこう！

佐久間 やだね。

武田 あそ。

佐久間 おまえ残るつもりか？

武田 考えてるよ。でもな、日本の人口、最終的には半分以下になるらしいんだよ。

佐久間 だからなんだよ。

武田 沈黙に耐えられねえ。

佐久間 違いねえや。

武田 そう云えば佐々木くん、どうしたんだ？

佐久間 それがな…

武田 あれ以来行方知れずか？

佐久間 麻矢ちゃんが猛烈に心配してる。それだけが気がかりだよ。

武田 どこいつちまったんだろなあ。  
佐久間 …。

麻矢と祥子。

祥子 麻矢ちゃん。

麻矢 …。

祥子 どうするの？ お母さんたちなんて？

麻矢 とりあえずお父さんの会社の移転先に行くって…。 たぶんあたしも…。

祥子 でも…一回出たら…

麻矢 戻って来れない…よね。日本には…。

祥子 …。

麻矢 仕方ないのかな…。

祥子 悲観的に考えないで。きっと、仕事してるんだよ。まだ。

麻矢 あれでけっこう仕事好きなのよね…。

祥子 そうなんだ。

麻矢 祥子さん、どうするの？

祥子 航空会社とか観光会社とかは、100%移転だから…。

麻矢 そうだよな。

祥子 あんまり変わらないんじゃないかな、今までと。あちこち飛び回って。ときどき

麻矢 日本のこと思い出して。

祥子 相原さん、可哀相だったね。

祥子 うん。

祥子の手には「SAMGO」。

祥子、それをみつめながら、

祥子 死んじゃうなら…死んじゃうなら、やらせてあげればよかった…。

麻矢 …過激な発言。(笑つ)

祥子 バカ。(笑つ。しかしちよつと泣き笑いのようだ)

全員が退場し、佐々木、登場

佐々木 とうとう突き止めましたよ…。ヒントは久保さんが持っていたテープ。エミー  
ル創世会での会話が録音されていた。なぜテープだけが抜かれていたのか。ずっと  
と考え続けました。創世会に行つて、テープを探し出した。そして聞いてみた。  
あの時、綵舟斎はあなたの名前を思い出したんですね。そしてそれを口にした。  
それを聞いて全部わかったんです…。なぜです。なぜこんなことを？ 僕にはわ  
からない。何千何万の悲劇と混乱が、どうしてあなたに必要だったんです。どう  
して日本に必要だったんです。それがわからない。それが川音教授からあなた  
が託されたことだったんですか？ それとも？ それがわかるまで、僕はこの国  
に、日本に、住み続けます…。

暗転。

## シーン18 後関家

後関家。  
サラリーマン、ぼつ然と座っている。  
珠子、登場。

珠子 …お父さん。

サラリーマン(父) …おまえか。

珠子 昼間も来たんだけど…、いなかったから…。

父 そうか。…ごめんな。

珠子 会社行ってたの？

父 いや…。

珠子 …。

父 どうせ行つたつて、みんなキチガイみたいに騒いでるだけだよ。

珠子 移転するの？

父 そりゃあそうさ。お父さんとこは、外国からものを買うことで商売してるんだ。

うちだけじゃない、日本の企業は多かれ少なかれ、みんなそうだよ。

でも、日本に残ってやっていけるところもあるんでしょ？ ニューズでそう

云つてたよ。自給自足体制に組み込まれて…

父 そんなのは一握りだよ。政府の息のかかったところだけさ。

珠子 そうなんだ…。

父 もともと日本には会社が多すぎるんだよ。…珠子。

珠子 ん？

父 …会社つてなんのためにあると思う？

珠子 仕事があるから…

父 そうだな、お父さんもそう思ってた。でも違つみたいだ。

珠子 じゃあどうして？

父 最初に仕事があつて、必要だから会社を作る。そう思つたさう？ そうじゃない

んだよ。会社を作って、そこに通つたり、威張つたり愚痴云つたり、給料貰つた

りしたいから、だから仕事を作るんだ。逆なんだ。なんて云つんださういつの、

ホンマツ…

珠子 本末転倒？

父 うんそれだ。

珠子 会社が仕事を生むつてこと？

父 おまえは小さい頃からアタマが良かった。…俺の自慢だ。

珠子 …やめてよ。

父、珠子の髪を不器用に撫でる。

父 最初は違つたんだ。俺たちのオヤジの時代は…。貧しくて、不便で、なんとかし  
よう、この国をなんとかしよう…自分たちの生活をなんとかしよう…なにもない  
ところから、なにかを作るつ…そう思つてみんなががむしゃらになって働いてた  
んだ。目的があつた。それが俺たちの世代くらいから…よく判らなくなった…。  
それでも…そういうもんだと思つてた…。

珠子 うん。  
父 でもな…、それじゃいかんらしいよ。もう…。

父 ……  
父 そういうのは不毛で、末期的で、悪循環で、病的なんだそうだ。おかしいだろ、珠子。俺たちはさ、そういうのが発展だって、進歩だって教わってきたんだよ。外国と同じようにやって、外国と仲良くして、役に立つようになって…。それは間違ってたんだとさ。

珠子 お父さん…。

父 ……どこのどいつがそんなこと決めたんだよ！ いや、そんなことはどうでもいい。オレの…俺たちの苦勞はいつたいたいなんだったんだ！ 訳の判らんイヤらしいコトバをペラペラペラペラ我がもの顔で喋りやがるガイジンドもに、必死で合わせて、必死で仲良くして、積み上げてきたものは…いつたいたいなんだよ！ それが…それが全部無意味だったって云うのか…！

珠子 お父さん…。

父 なにが自給自足だ！ 俺が決めたのかよ！ ええ！ 俺がこんな日本にしたのかよ！ 俺に選ぶ余地があつたって云つのかよ！ いまさら選べって云われたって…いまさらシユレ…シユレ…

珠子 首尾一貫。

父 それだ。…おまえに怒鳴ってもしようがないよな…。ごめん。

珠子 ううん、いいの。

父、気が抜けてがっくり脱力する。

父 まあ…なにを云っても始まらない…。とにかく、うちは移転だよ…。

珠子 どこになりそう？

父 さあな、アメリカかロシアかヨーロッパか…。チリかペルーかモンゴルか…。どうでも、いいえ…。

父の手に開封された手紙がある。

珠子 それ…お母さんから？

父 ああ。

珠子 ……なんて？

父 あいつはほら、お義父さん、現役で偉いサンだろ。

珠子 お祖父ちゃん、重役だもんね。

父 だからそつちにくつついてくつてさ。

珠子 ……そつ。

父 ……まあ…そのほうが条件はいいだろ。お父さんも気が楽だよ、そのほうが。

珠子 ……いいの？

父 ……。

父、笑おうとするが、顔が歪む。  
いきなり手紙を破り捨てる。

珠子 ……。

父 珠子。ごめんな。…こんなときに…家族バラバラなんて…こんな…

珠子 そんな…そんなのお父さんの所為<sup>せい</sup>じゃないよ！

父 でもな…でもな…

珠子 あたしだつて好き勝手にしてたんだもん。

父 いや…。おまえは悪くない。お父さんが悪いんだ。

珠子 もう、よそよよ。

父 …。

親子、やや黙る。

父 …。そつだ。おまえどうする。

珠子 …。

父 おまえ、お母さんと行くか。そのほうが移転してから楽だぞ。なるべく大きな企業にくつついてったほうがいいんだ。

父、破り捨てた手紙を捨つ。

父 そつだ、それがいい！ そつしなさい。な！ お父さん、お父さん手紙書いてやるから…

珠子、父の手から手紙を奪つ。

父 …。

珠子 ねえ、お父さん。

父 …ん。

珠子 ここに…日本に…残ってまない？

父、珠子を見る。

珠子、父を見る。

暗転。

## シーン19 外伝

語り部(きのと)登場。

きのと ……こうして、あらゆることが変わった。こうしておまえたちの国は新しく作られた。想像を絶する混乱のあとに、見事に前進的閉鎖をなすとげ、発展的縮小を実現した。これがおまえたちの国の建国の神話であり、サムライガールの物語じゃ…。

子供たち、真剣に聞いている。

きのと この話を、おまえたちが大人になったときに、おまえたちの子供にしてやるがいい。おまえたちの子供の、そのまた子供たちも、今のおまえたちと同じように、いろんなことを感じ、考えるじゃろう。そして、自分たちがいかに幸せかを感謝するようになるじゃろう。…ワシの話はこれでおしまい。おお、ちょうど日も暮れるな…。そしたら、みな、去いね。

子供たちが去り、ひとりの男が現れる。

きのと 来たの。

男 ひしり、と云います。

きのと きのとじゃ。このあたりじゃ一番古いジジイじゃ。もう四十才を超えておるでな…。

男(ひしり) あれで、子供たちは納得するのですね…。

きのと ああ。しよるな。

ひしり 僕は、出来ませんでした。

きのと 知りたい、か…。

ひしり 僕の祖父は、ササキというケイサクカンだったそうです。

きのと ……。

ひしり 探索者です。建国の時に、たったひとり、国外脱出しなかったササキ刑事です。

きのと 因縁じゃのう。

ひしり 聞かせてください。サムライガールとは誰だったのか。

きのと ワシは同じ話しかできん。じゃが、たったひとつだけ、神話の違うエピソードを知っておる。いわば外伝じゃの。それを聞くか…？

ひしり ぜひ…。

きのとが語り始めると、空間は現代に戻っていく。

\*\*\*

エミール創世会のビルの前。  
佐々木、真佐代、碧、高山、夢遊病のように歩いて登場。

真佐代 ……んっ。

我にかえる真佐代。

真佐代 あらっ。佐々木さん。碧ちゃん。碧ちゃん！ 右近くんも…。あらあ…あたし  
 どうしたんだっけ…。

タナカ、登場。

タナカ おや、どうしました？

真佐代 いえあの、実はなんか、連れが…ちよつとなんか…いい感じに仕上がっちゃっ  
 たっていうか…

タナカ ああ、最近多いんですよねえ。

真佐代 え、多いうって、こーいう…

タナカ なんかね、すぐそのビルに、おかしな宗教団体があるんですよ。心霊占いと  
 か云ってね。たぶんそこに行かれたんじゃないですかね。

真佐代 え、そう云えばそんな気も…いや、でも…

タナカ ほら、その人だってそれらしいかっこしてるして。

真佐代 そう云えば…

タナカ だいじょうぶですよ。たいていはすぐに我に戻るみたいですから。

真佐代 そうですかあ…。

佐々木 あれっ。

佐々木、気がつく。

佐々木 んっ。お？…おれ、なにやってんだ？

タナカ ほらね。

真佐代 佐々木さん！ ホントに。

佐々木 ああ、真佐代さん…でしたね。

タナカ ね、他の人もすぐ気がつきますよ、きつと。

真佐代 どうもありがとうございます。

タナカ それじゃお元気で。

真佐代 相馬さんも…。

タナカ、去りかけて、ぎょつとして振り返る。

真佐代 …あ…やっちゃった…。

タナカ あなた今なんて…

真佐代 こりゃ取り返しつかないなあ…

タナカ あんたまさか！ あんたが川音真佐代…（真佐代に詰め寄る）

佐々木 おい、なにする。

真佐代、すつとタナカの耳元に口を寄せて囁く。

真佐代 …オトコのサムライ。

タナカ …。

タナカ、しばし静止して、回れ右して退場していく。

佐々木 真佐代さん、今の、なんなんですか？

真佐代 ついついやっちゃうのよねえ、取り返しのつかないことが好きなのかなあ…。

佐々木 真佐代さんてば。



真佐代 あ、いいのいいの。なんでもない。あのね、佐々木さん。  
佐々木 はあ。

真佐代 覚えといて欲しいんだけど、

佐々木 は？

真佐代 取り返しのつかないことって、無性にしたくなるのよね。出来るって思った瞬間にね。だからね、意味なんか無いの。考えすぎちゃ駄目。ね。

佐々木 エーと、なんのお話でしょうか…。

真佐代 いいの。今は。いつかちょっと思い出して。

碧と高山同時に我に返り、すぐさまケンカの続きを始める。

碧 【だいたいあんたが悪いんでしょ元々！】

高山 なに云ってんだ、おまえが文句ばかり云うから俺は…

碧 【なによ！】

高山 俺は…おれ、どうしたんだっけ…？

碧 【あたしなに怒ってんだっけ…？】

高山 わあ、なんだこのかっこ。

碧 【なあにその服。バカみたい！ 似合っー！】

高山 なんだろうこれ…、あ、衣装かな…？ こんな役だっけ…？

真佐代 ホラホラ、ふたりとも。

高山 あ、真佐代さん。あの…おれって？

真佐代 いいから帰るわよ。あとでゆっくり話してあげる…。ホラ碧ちゃん行くわよ！

真佐代、碧、高山退場。

佐々木 おとこの…サムライ？…おとこだろ、サムライは…。

追って退場。

空間は未来へ。

話し終えたきのとと、聞き終えたひしりが、空を見上げている。

珍しい客に、子供たちが恐る恐る集まってくる。

ひしり、立って手招きをする。

わあっ集まる子供たち。

遠いところの珍しい話を聞きたいのだ。

ひしりを囲んではしゃぐ子供たち。

きのは、また眠りに落ちたようだ。

一日の最後の光が、惜しげもなく世界を満たしている。

幕。